

第109回城山地区まちづくり会議全体会結果

日 時：令和6年4月25日（木）

午後7時～午後9時50分

会 場：城山総合事務所本館2階B会議室

出席者：17名（欠席6名）

傍聴者：2名

1 開 会 内山所長

2 あいさつ

小島代表のあいさつの後、新任委員及び新理事務局職員の自己紹介が行われた。

3 報告事項

令和5年度地域活性化事業交付金事業の評価及び活動報告について

事務局より令和5年度地域活性化事業交付金事業の評価結果及び活動報告についての報告がされた。

4 議 題

（1）次期城山地区まちづくり会議の構成団体について

事務局より4/12に開催された「第8期城山地区まちづくり会議委員（有識者）選考委員会」で選出された2名の候補者について報告がされ、満場一致で承認され、今後正式に参加の依頼をすることとなった。

（2）令和6年度地域活性化事業交付金申請事業に対する意見について

最初に、事務局から令和6年度相模原市地域活性化事業交付金制度の概要等について説明を受けた。

続いて、申請事業ごとに申請者から事業概要の説明を受け、質疑応答の後、当該事業に対するまちづくり会議としての意見を取りまとめた。

ア 事業名：しろやま土曜寺子屋活動

団体名：しろやま土曜寺子屋実行委員会

（○委員の意見・質問、●申請者の回答）

《主な意見・質問、回答》

○学校の学習の補修という意味合いが強いのか。

●子どもたちが自由に勉強できる場所と時間を提供することで、学ぶ意欲や楽しさを伝えるのが目的であり、補習という意味合いではない。

○会場は小学校となっているが、自治会館等を使うのも良いのではないかと

思う。

- 子どもの育成にとっても良いことだし、関わる地域の大人にとっても良いことだと思う。
- 予算書の中で収入が地域活性化事業交付金のみとなっているが、本事業を継続するために、資金調達はどのように考えているか。
- 現時点では地域活性化事業交付金以外の資金調達の目処は立っていないが、今後PTAや自治会と連携して、予算面での援助をお願いする予定。
- 参加者の人数制限などは行う予定か。
- 人数制限は行わず、参加希望の子どもは全員受け入れたいと考えている。
- 基本的には学校の先生が出勤していない土曜に学校の施設を使うのは難しい部分があると思うので、よく調整した上で実施した方が良い。
- 参加者の集合場所や移動手段などの安全面に配慮してほしい。

《まちづくり会議としての意見》

- ・4年目以降の資金調達方法を考えて、持続可能な事業にしてください。
- ・学校施設を使用する場合は、学校と協議の上、実施してください。
- ・参加者の安全に配慮して取り組んでください。

イ 事業名：若葉台を含む城山地域の防災・減災プロジェクト
団体名：若葉台住宅を考える会

(○委員の意見・質問、●申請者の回答)

《主な意見・質問、回答》

- 初めは若葉台地区に声をかけて実施し、その後に対象地域を広げる予定か。
- 初めから城山地区全体に周知して参加を募る予定である。
- 講師謝礼が大きな支出になっているが、4年目以降の事業継続を考え、収入面で新たに検討が必要である。
- 地域での広がりや今後の継続のためにも、若い担い手を育成することが必要だと思う。
- 防災ネットワーク構築後の自立運営に向けた構想を3年間で考えてほしい。

《まちづくり会議としての意見》

- ・自立した事業として継続できる計画を立ててください。
- ・4年目以降の資金調達方法を考えて、持続可能な事業にしてください。

ウ 事業名：みんなの津久井湖夏祭り
団体名：みんなの津久井湖夏祭り実行委員会

(○委員の意見・質問、●申請者の回答)

《主な意見・質問、回答》

- 城山地区ならではの、他のイベントとは違う企画等を考えてやっていただきたい。
- 若い人たちが中心になって行うイベントであり、地域の様々な活動の担い手が高齢化していく中で、地域の繋がりが広がり若者の地域活動への参加を促進すると思うので、今後も頑張ってもらいたい。
- 地域の繋がりができれば、災害時にも助け合いの精神で、このイベントの出店者が食糧を提供するなどの活動が生まれる可能性があるので、ぜひ継続して実施してほしい。
- 行政の福祉部門との連携も含め、様々な繋がりを作っていきたいと思う。
- ケガ人が出た年もあったと記憶しているが、医療体制等はどのようなになっているか。
- 当日は救護の担当が常に会場の事務局ブースで待機している。
- 出店者に関して、毎年同じ出店者にならないような工夫をしたいとの話があったが、城山地区内の飲食店等の事業者に対しても積極的に出店を募ってほしい。
- 城山地区の魅力を深めて、外部に発信できるようなイベントにしてほしい。

《まちづくり会議としての意見》

- ・出店者の募集に関して、市全体に周知する一方、城山地区からの出店者を積極的に募集してください。
- ・城山地区の魅力を発掘・発信できるイベントにしてください。

エ 事業名：しろやま☆おせっかい

団体名：城山地区まちづくり会議 高齢者ととともに築き支える地域づくり部会

(○委員の意見・質問、●申請者の回答)

《主な意見・質問、回答》

- まちかどウォッチングについて、昨年度実施した中で実際に「おせっかい」を行った事例などはあるか。
- 昨年度は地域を知る、地域の繋がりを作ることに重きを置いたため、実際の実例はなかったが、今年度は事例や方法の紹介をして活動を広めたい。
- 本事業を継続するために、資金調達などの持続可能な計画を立てることが必要である。
- おせっかい風土を広め、根付かせるのが本事業の目的であるため、目的が達成されれば資金調達をして事業を進める必要性はないと考えているが、来年度以降の計画を検討していきたい。
- 昨年度はウォーキングの活動に重きを置いていた印象があるが、今年度はウォーキング後のおせっかい事例紹介等の話し合いを重点的に行うのか。

●その通りである。

○現在はまちづくり会議の委員が主体で事業を実施しているため、今後の担い手をどうするのか、考える必要がある。

《まちづくり会議としての意見》

- ・ 4年目以降の実施方法を考えて、自立して継続できる事業にしてください。
- ・ 持続可能な事業にするため、今後の事業の担い手を考えてください。

オ 事業名：あつまれ～ しろやまっこ！

団体名：城山地区まちづくり会議 子どもたちの主体性を育む地域づくり部会

(○委員の意見・質問、●申請者の回答)

《主な意見・質問、回答》

○子どもは、どの年齢を対象にしているか。

●小学校3年生から6年生を対象にする予定である。

○実際に実施するゲーム等の企画は、子どもたちに考えてもらう方が良いと思う。

○イベントの開催は年に1回なのか。

●現状では1回の予定である。城山地区子ども会育成連絡協議会と協力して事業を実施する予定なので、城山地区子ども会育成連絡協議会が実施している既存の別のイベントへの参加も検討したい。

○12月の実施までに期間があるため、複数回の実施を検討してほしい。

○継続した事業にするためにも、城山地区子ども会育成連絡協議会と調整して事業計画を考えてほしい。

《まちづくり会議としての意見》

- ・ イベントの複数回開催を視野に、開催方法を検討してください。
- ・ 子どもたちの意見を聞いて、実施するゲームについて検討してください。
- ・ 持続可能な事業計画を考えてください。

(3) 城山地区で具現化していく取組について (部会検討)

予定されていた部会の検討について、時間の都合上、本日は行わないこととし、次回の全体会終了後に行うこととなった。

5 閉 会 高野副代表

以 上

第109回城山地区まちづくり会議出欠席者名簿

任期: 令和4年4月27日～令和6年4月26日

番号	分野	団体名	役職等	委員氏名	出欠
1	地域関係	城山地区自治会連合会(会長)	代表	小島 盛生	出席
2		城山地区自治会連合会(副会長)	部会長①	林 和博	出席
3		城山地区自治会連合会(副会長)		中野 秀人	出席
4		城山地区自治会連合会(川尻小学校区)		井上 貢一	出席
5		城山地区自治会連合会(湘南小学校区)		西川 正行	出席
6		城山地区自治会連合会(広陵小学校区)		安西 忠義	出席
7		城山地区自治会連合会(広田小学校区)	副部会長②	小原 貴弘	出席
8	保健・福祉関係	城山地区社会福祉協議会		井上 章	出席
9		城山地区民生委員児童委員協議会		菅野 敬子	出席
10		城山地区シニアクラブ連合会		金子 宏夫	出席
11		城山ボランティア連絡会	副部会長①	宗田 眞理子	出席
12		城山地域包括支援センター		藤瀬 香理	出席
13	産業・経済関係	城山商工会		平栗 文夫	欠席
14		城山観光協会		桜井 かおる	出席
15		相模原法人会(津久井第1支部)			
16	防犯・防災関係	安全・安心まちづくり推進協議会城山支部		小野寺 義行	欠席
17		相模原市消防団北方面隊		田野倉 隆彦	欠席
18	教育関係	城山公民館運営協議会	副代表	高野 朝枝	出席
19		PTA連絡協議会城山ブロック協議会		田中 友紀	出席
20		城山体育振興協議会		長田 尚	欠席
21		城山地区小中学校長情報連絡会		井上 成子	欠席
22		特定非営利法人 城山スポーツ&カルチャークラブめいぷる		片倉 理恵	出席
23	有識者		副代表	曾根 哲男	欠席
24			部会長②	金子 直美	出席

①は高齢者とともに築き支える地域づくり部会

出席者数 17人

②は子どもたちの主体性を育む地域づくり部会

欠席者数 6人

第109回城山地区まちづくり会議 全体会次第

日 時 令和6年4月25日（木）
午後7時から
会 場 城山総合事務所本館
2階B会議室

1 開 会

2 あいさつ

3 報告事項

令和5年度地域活性化事業交付金事業の評価及び活動報告について

- ア 地域活性化事業交付金 事業採点結果 資料1-1
- イ 地域活性化事業交付金 活動報告 資料1-2～4

4 議 題

(1) 次期城山地区まちづくり会議の構成団体について

(2) 令和6年度地域活性化事業交付金申請事業に対する意見について

- ア 地域活性化事業交付金制度の概要 資料2-1
- イ 地域活性化事業交付金交付要綱 資料2-2
- ウ 地域活性化事業交付金申請事業に対する意見のとりまとめ方
. 資料2-3・4
- エ 地域活性化事業交付金申請事業について 資料2-5～10

(3) 城山地区で具現化していく取組について（部会検討） 資料3・4

5 閉 会

＜次回の予定＞		
第110回全体会	<u>5月30日（木）午後7時</u>	城山総合事務所 本館2階B会議室

令和5年度城山地区地域活性化事業交付金 事業採点結果一覧表

地区名	城山地区
-----	------

NO	事業名	団体名	継続年数	公共性 (配点12点)	妥当性 (配点12点)	継続性・自立性 (配点12点)	波及性・発展性 (配点12点)	目標設定 (配点12点)	地域性・独自性 (配点12点)	合計 (配点72点)	評価 ※1	総括コメント
1	しろやま☆おせっかい	城山地区まちづくり会議 高齢者とともに築き支える地域づくり部会	2	9	7	6	7	5	10	44	B評価	「しろやま☆おせっかい」の取組を継続するためには、城山地区社会福祉協議会や城山地域包括支援センター等の関係機関との協力・連携が必要と考える。地域で取り組んでいる様々な活動と連携を図り、城山地区に「おせっかい風土」が広く根づく取組を期待する。
2	城山湖ヒルクライムアタック雌龍籠山ステージ	城山湖ヒルクライム実行委員会	3	9	8	7	7	10	11	52	B評価	ヒルクライム競技の運営に関しては、地元関係団体などの協力を得ることができ、イベントの定着度が向上したものと考える。観客用送迎マイクロバスの運行などの新たな試みを実施しており、今後の事業の発展や観光振興に努めたことが評価できる。今後は、更なる認知度向上に努め、オリンピックレガシーにおける自転車ツーリズムの普及を図り、シティープロモーションの推進をさらに進めてほしい。
3	みんなの津久井湖夏祭り	みんなの津久井湖夏祭り実行委員会	1	10	9	12	12	9	9	61	B評価	地域の各種団体及びボランティアの協力により、若い人が中心となって地域一体の事業運営がされており、また、課題となっていた「安全の確保と渋滞の回避」について、警備員やボランティアの配置増、新たな駐車場の確保、シャトルバスの運行により課題を解決し、今後の事業の発展や観光振興に努めたことが評価できる。 今後については、若い世代の方等の担い手の育成をさらに充実させ、地域全体で盛り上げることに、地域コミュニティの強化の一助となることを期待するとともに、地域一体となった事業運営を継続し、城山地区の魅力発信・知名度向上につながることを期待する。

【評価方法】

A評価	65点～72点
B評価	29点～64点
C評価(交付終了)	0点～28点

令和 5 年度 地域活性化事業交付金 活動報告

事業名：しろやま☆おせっかい

団体名：城山地区まちづくり会議高齢者とともに築き支える地域づくり部会

項目	月 日	事業の具体的な内容	参加人員
実施事業の 実績	5月25日	城山地区まちづくり会議高齢者とともに築き支える地域づくり部会 ・まちかどウォッチングの内容、スケジュールの確認	10
	7月22日	川尻小学校区（原宿地区）まちかどウォッチング実施	20
	7月27日	城山地区まちづくり会議高齢者とともに築き支える地域づくり部会 ・5/25 まちかどウォッチングの振り返り、次回まちかどウォッチングの内容・スケジュールの確認	8
	9月23日	広田小学校区（町屋地区）まちかどウォッチング実施	15
	11月30日	城山地区まちづくり会議高齢者とともに築き支える地域づくり部会 ・9/23 まちかどウォッチングの振り返り、次回まちかどウォッチングの内容・スケジュールの確認	9
	12月9日	湘南小学校区（小倉地区）まちかどウォッチング実施	21
	1月25日	城山地区まちづくり会議高齢者とともに築き支える地域づくり部会 ・12/9 まちかどウォッチングの振り返り、次回まちかどウォッチングの内容・スケジュールの確認	9
	1月27日	広陵小学校区（城山・谷ヶ原地区）まちかどウォッチング実施	32
	3月21日	城山地区まちづくり会議高齢者とともに築き支える地域づくり部会 ・1/27 まちかどウォッチングの振り返り ・次年度の取組検討	8
事業実施により得られた効果	<p>城山地区内の様々な地区でまちかどウォッチングを実施し、まちづくり会議（部会）で検討してきた、地域を知り人と繋がることで目配りや気配りを行う、ゆるやかな見守りの気風のきっかけとなった。</p> <p>また、まちづくり会議委員や協力者によるエリア内全戸チラシ配布を行ったことにより、まちかどウォッチングに参加しなかった人に対しても、広く啓発をすることができた。参加者同士のコミュニケーションも行われ、地域の繋がりの一助となった。</p>		
実施事業に対する自己評価	<p>事業を実施した4地区各々に自治会、民生委員等、協力参加者が力となり呼びかけ、コミュニケーションの繋ぎ役としての積極的な行動が、今後事業を進める地域力となることを感じた。</p> <p>まちのいろいろな表情（風景）をながめながら、周囲への声かけと併せて、目配り・気配りによる異変の有無の確認などを通じて“おせっかい風土”への種蒔きができたことを実感し、これからさらに根づき広まっていくと確信している。</p>		

次年度以降
の展望等

今後は、地区内の各種団体との連携を強化し、子どもたちも理解して興味と関心を持ってもらえるような企画を考え、城山地区におせっかい風土がさらに広く根づくような取組を検討していきたい。

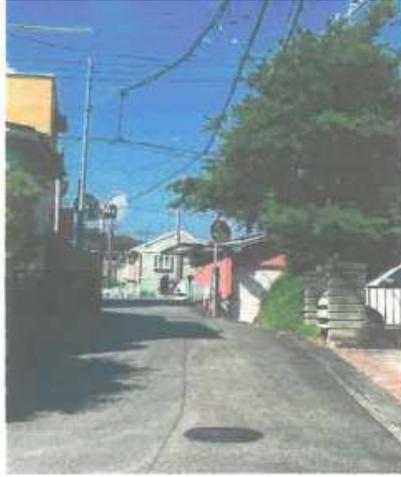
また、個々の気づきを活かすため、横の繋がりがスムーズにいく仕組みを作り、周知したい。

活動写真

まちかどウォッチング（川尻小学校区）原宿地区



まちかどウォッチング（広田小学校区）町屋地区



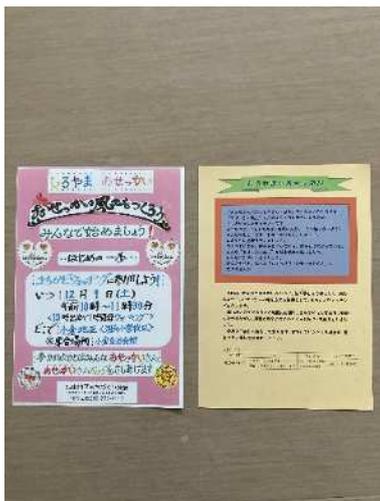
まちかどウォッチング（湘南小学校区）小倉地区



まちかどウォッチング（広陵小学校区）城山・谷ヶ原地区



チラシ



令和 5 年度 地域活性化事業交付金 活動報告

事業名：城山湖ヒルクライムアタック雌龍籠山ステージ

団体名：城山湖ヒルクライム実行委員会

項目	月 日	事業の具体的な内容	参加人員
	6月 26 日	第1回実行委員会(開催等内容の決定)	12
	7月 25 日	第2回実行委員会(役割分担の決定/実行予算審議)	12
	8月 29 日	第3回実行委員会(当日スケジュール、各担当進捗状況報告)	12
	9月 26 日	第4回実行委員会(ボランティア説明会について)	11
	10月 27 日	ボランティア参加者説明会	11
	10月 27 日	第5回実行委員会(当日運営について)	50
	11月 7 日	第6回実行委員会(運営、備品、スケジュール等最終確認)	10
	11月 11 日	前日準備(会場設営、備品等の運搬)	25
	11月 12 日	大会当日 エントリー:118名(出走105名) ボランティアスタッフ77名、実行委員12名	194
	12月 12 日	第7回実行委員会(大会総括)	9
事業実施により得られた効果		<p>男性107名 女性11名(神奈川県74名 近郊県44名)のエントリーがあり、地域団体(自治会、観光協会、商工会等)や個人ボランティアの協力により、地域一体となった事業として開催することができた。また、第4回を迎えることにより参加リピーターも約50%おり、参加者からの評価も高く自転車ロードレースとしての認知が高まり、城山地域の魅力発信の良い機会となった。</p> <p>本大会を通じて、自転車競技をPRし、シティープロモーションの推進やシビックプライドの醸成につながられたものと考えている。</p>	
実施事業に対する自己評価		<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア77名(自治会、観光協会、商工会等、個人)が参加することで地域一体となった事業運営を行うことができた。 ・大会の状況をリアルタイムで会場にアナウンスすることで、観戦者と選手が一体となって盛り上げることができた。 ・麓(城山総合事務所)から山頂(城山発電所)まで観客送迎用無料マイクロバスを運行し、観戦しやすい環境を整えた。 ・ドクターや救急救命士を配置し、緊急時に対応できる医療体制をとり、万が一の場合に備え、参加者やボランティアの安心・安全を図ることができた。 ・城山湖周辺を会場とすることで、自然環境や観光資源をはじめとする魅力を発信することができた。 	
次年度以降の展望等		<ul style="list-style-type: none"> ・参加者の増加、協賛企業等の支援、効率的運営による費用削減等を推進し、補助金を活用しない効果的な開催を進めていきたい。 ・本ロードレースをきっかけにロードバイクで継続的に訪れるような自転車ツーリズムの普及につなげたい。 	

第4回城山湖ヒルクライム 記録写真

開会式



受付



スタート



競技中



ゴール



表彰式・閉会式



第4回 たった“21km”の!?

城山湖ヒルクライムアタック

めたっこ山ステージ

開催日 2023.11.12(sun)

コース 全長2,000m 平均勾配4.5% 最大勾配10%
 START:緑区川尻 相模原市道テニスクラブ入口 上
 GOAL:城山発電所 展望駐車場付近 駐車場は会場近所を予定しています。

定員:150人前後 個人TT 4,500円
 チームTT 2名:1,500円 3名:2,100円
 4名:2,400円 5名:2,500円

コースレコード

男子個人 4分26秒21
 女子個人 5分46秒74
 チーム 4分39秒33

参加者募集中!!
 大会エントリーはこちら!

大会登録を合わせて
 ご応募ください!

大会運営をサポートスタッフ、カメラマンの募集も行っております。
 お問い合わせ 城山湖ヒルクライム実行委員会 TEL:042-7682-8887 (山の上) 042-7682-8888 (下)

主催: 城山湖ヒルクライム実行委員会 共催: 相模原市緑区 城山地区 城山地区自治会連合会
 協賛: 相模原市 協賛: 相模原市緑区 協賛: 相模原市緑区 協賛: 相模原市緑区 協賛: 相模原市緑区

シール

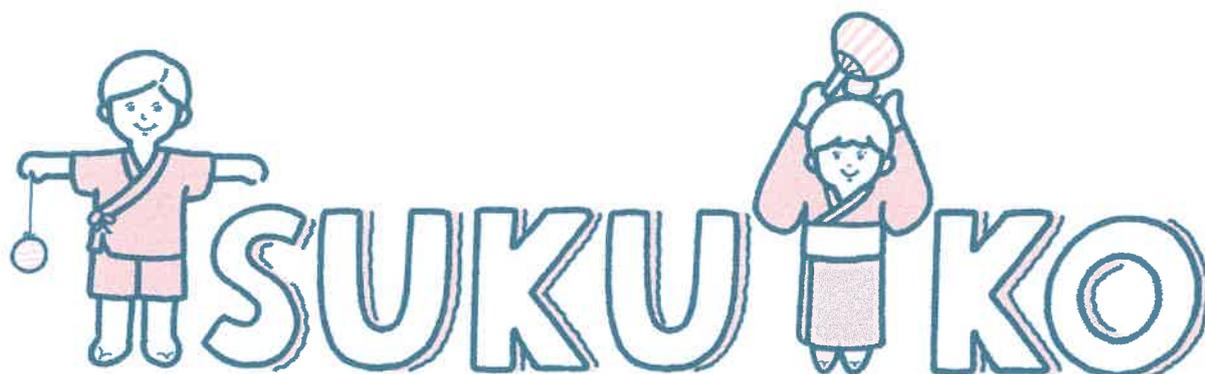


令和 5 年度 地域活性化事業交付金 活動報告

事業名：みんなの津久井湖夏祭り

団体名：みんなの津久井湖夏祭り実行委員会

項目	月 日	事業の具体的な内容	参加人員
実施事業の実績	2月8日	準備委員会	15
	3月8日	第1回実行委員会（役員選出、実行委員の役割分担）	25
	4月5日	第2回実行委員会（各実行班の役割と各班の計画書作成）	23
	5月10日	第3回実行委員会（各実行班の役割分担と活動計画の検討）	25
	6月14日	第4回実行委員会（共催・後援団体への依頼、協賛金のお願い）	22
	7月5日	第5回実行委員会（各実行班による活動計画の推進状況）	23
	7月19日	第6回実行委員会（各実行班による活動計画の推進状況）	22
	7月28日	出展者・ボランティア説明会	40
	8月4日	第7回実行委員会（各実行班の当日の準備状況）	24
	8月9日	第8回実行委員会（最終確認）	20
	8月11日	みんなの津久井湖夏祭り(イベント)	8500
	8月12日	みんなの津久井湖夏祭り（みんなでゴミ拾い）	51
	9月29日	第8回実行委員会(反省会)	16
事業実施により得られた効果	<p>① 昨年度の「第1回みんなの津久井湖夏祭り」の来場者 5,000 人に対し、今回は 8,500 人と大幅に増加した。また、知名度が上がってきたことにより城山地区以外の来場者の増加が目立った。</p> <p>② 昨年度と比べ実行委員が 20 名から 30 名に、ボランティア数も 50 名から 95 名と大幅に増え、その中心が 20～30 代でイベント開催の大きな力となった。</p> <p>③ 昨年の「第1回みんなの津久井湖夏祭り」では予想以上の入場者のため交通渋滞を起し迷惑をかけてしまい、その反省として「イベントの安全と交通渋滞回避」を目標にかかげ、警備員の倍増や危険箇所へのボランティアの配置そして駐車場の確保や川尻小学校と広陵小学校から相模原城山高校前までの定期シャトルバスを運行によって無事故・無渋滞を実現できた。</p> <p>④ イベントを持続可能なものとするために広く事業者や個人の協賛をつのり、昨年の 21 社(人)から 97 社(人)と大幅に増加し、計画通り花火も打ち上げることが出来た。</p>		
実施事業に対する自己評価	<p>出店数やイベント数の倍増、花火の打ち上げもあり前回をはるかに超える 8,500 人の来場が有り、会場は終始盛り上がりを見せた。また前回の最重要課題であった「安全の確保と渋滞の回避」については無事故・無渋滞を達成できた。また、実行委員やボランティアスタッフの充実により新たな企画として「ランタン・キャンドル night」やビンゴゲーム、キッズダンス等により楽しんでいただけたと思われる。知名度が上がってきたことにより協賛していただいた会社(人)が大幅に増え、将来本事業が自走できる足掛かりを作ることが出来た。</p>		
次年度以降の展望等	<p>「みんなの津久井湖夏祭り」にもあるように本イベントが沢山の人の手で計画され、実施される幅広い年齢層による手づくりの地域に根差したイベントとして成長してきている。今年度は 70 名のボランティアの学生と 25 名地域ボランティア協力があつた。地域住民・企業に加え、高校生や中学生を巻き込んだイベントとなるよう来年度は進めて行く計画である。城山地区の歴史・文化そして豊かな自然を紹介しそれを生かした特徴のあるイベントとなることを引き続き目指して行きたい。</p>		



2023年 みんなの津久井湖夏祭り

会場:神奈川県立津久井湖城山公園水の苑地

実施報告書

2023/10/29

みんなの津久井湖夏祭り 実施レポート

イベント概要

- **タイトル:** みんなの津久井湖夏祭り
- **主催:** みんなの津久井湖夏祭り実行委員会
- **共催:** 城山観光協会、神奈川県公園協会・サカタのタネ GS グループ
- **後援:** 相模原市、相模原市緑区、相模原市観光協会、津久井青年会議所、神奈川県津久井湖協会(津久井湖記念館)、城山商工会、津久井観光協会、津久井商工会、中沢自治会、城山自治会、久保沢自治会
- **協賛:** 104件
- **実施日程:** 8月11日(金):みんなの津久井湖夏祭り
8月12日(土)みんなでゴミ拾い

■ 実施内容:

01. 伝統芸能披露(囃子の演奏等)

城山町祭囃子連絡協議会より、
中澤囃子連、若葉台囃子連による祭囃子の演奏。

02. キッチンカーやテントでの軽食販売

全39事業者によるキッチンカーやテントでの軽食販売、縁日の出店。
(キッチンカー出店14組、テント出店14組、協賛企業14組)

03. ステージイベント

- ・有志による津久井湖物語の発表(朗読、ダンス)
- ・キッズダンス、フラダンス、ハモネプの発表
- ・ビンゴ大会の実施

04. TSUKUIKOランタン・キャンドルNight

・津久井青年会議所主催のLEDランタン・キャンドルイベント

05. 参加型フォトブース

Iを体で表現することで完成する、参加型のTSUKUIKOフォトブースの設置。
(イベント宣伝のため、7月下旬より設置)

06. 花火

湖月荘跡地から約5分間の花火打ち上げ

07. みんなでゴミ拾い

8/12に有志のボランティアによる会場と周辺地域のゴミ拾いを実施。

みんなの津久井湖夏祭り 実施レポート

イベント参加人数

祭り来場者数 (入口3か所にて集計)	8500人
-----------------------	-------

※総数から約15%を重複人数とする ※主催者発表

当日参加ボランティア (設営含む)	95人
----------------------	-----

みんなでごみ拾い	51人
----------	-----

〈8/11時間別来場者内訳〉

チェックポイント	14:00～17:00	17:00～20:00	カウント外
水の苑地駐車場入口	611	1100	—
中沢中からの横断歩道入口	1500	2300	—
メグジェラート横入口	2876	1800	—
小計	4987	5200	240

会場レイアウト

水の苑地平面図



みんなの津久井湖夏祭り
実施レポート

制作物

■ポスター

ポスターサイズ A2/300部

2023
SUKUIKO
みんなの津久井湖夏祭り

8.11 15:00~20:30
金曜日(山の日)
雨天決行(荒天中止)

※8/12(土) みんなでゴミ拾い 7:30~9:00

URL: <https://www.みんなの津久井湖.com>
主催: みんなの津久井湖夏祭り実行委員会
場所: 神奈川県立津久井湖城山公園水の苑地

公式Instagram
TSUKUIKO.MATSURI

みんなの津久井湖夏祭り 実施レポート

制作物

■フライヤー

フライヤーサイズ A3/両開き10,000部

協賛企業・団体・協賛者一覧

有限会社 アキモ印刷、株式会社アマギ ダイハツ二本松、株式会社 エスール技研、エヌ・ディ・ケーエンジニアリング株式会社、大野土曜株式会社、有限会社 相模工業、(有)久慈工務店、有限会社 宇城園、小島細工(株)、慶應義塾保健会 広瀬病院、株式会社 ジュエーン企画、城山観光協会、城山自治会、城山地区自治会連合会、すいげん整体&リンパケア、セブンイレブン相模原城山第2丁目店、ダイエー津久井店、TAIYAKI MARUCHAN、(株)高層建設、中華そば安室、株式会社東海ビルメンテナンス、ノゾNEW城山店、橋本自動車学校、ハックルベリー、パッションフラワー、原宿自治会、はり灸院 七、株式会社ファースト、Blow、マクドナルド城山店、(株)マルチアフォーコーポレーション、有限会社 藤織園、(株)ミリオン事務機器、向原自治会、森下道徳株式会社、八木清病院、株式会社 ヨコハマメタル

協和ACI株式会社、第一生命保険(株)橋本第一営業オフィス、(株)山久企画
青野原野呂ロッジキャンプ場、株式会社イノウエ、ACCE 企画、ACE-K、(株)MMKコーポレーション、久保沢自治会、株式会社サンエー総務、株式会社 清水、じゅんじゅん内科、ハタノ木材 株式会社、(株)松本工業、森木材(株)

WEINS
ワインストリヤ 津久井

佐藤架設

医療法人社団 **緑相会** エムズ歯科

株式会社 **生物技研**
Bioengineering Lab

※城山町にもたくさんのお祭り・団体が参加を申し込まれた。ありがたうございました。

主催 みんなの津久井湖夏祭り実行委員会
共催 城山観光協会、神奈川県公園協会・サカタのタネCSグループ
後援 相模原市、相模原市緑区、相模原市観光協会、津久井青年会連合会、神奈川県津久井湖協会(津久井湖記念館)、城山商工会、津久井観光協会、津久井商工会、中沢自治会、城山自治会、久保沢自治会
協力 第一生命保険(株)橋本第一営業オフィス、桜美対大学大学祭実行委員会、法政大学しるやばあみず

URL: <https://www.みんなの津久井湖.com>
主催：みんなの津久井湖夏祭り実行委員会
場所：神奈川県津久井湖 城山北園水の苑地

2023 TSUKUIKO
みんなの津久井湖夏祭り
8.11 15:00~20:30
金曜日(山の日)
雨天決行(荒天中止)
※8/12(土) みんなでゴミ拾い 7:30~9:00

楽しいイベント盛りだくさん!

お祭りゲームコーナー

屋台・キッチンカー 30店大集合
CREPE

城山町祭囃子連絡協議会による演技

同時開催!

会場アクセス

橋本駅からバスでお越しの方
橋本駅北口より「橋01三ヶ木行」で約20分「城山高校前」下車、徒歩3分で到着します。

川尻小学校 14:30~約30分おきに出発予定
広陵小学校 14:30~約60分おきに出発予定

※出発時刻により、ダイヤの変更がある場合がございます。
※お申し込みの際は必ずお電話にてご確認ください。
※当日は混雑が予想されます。
※乗車料、乗降料は各自の責任でお願いします。

※中沢中学校 校庭
※花の苑地 (21時閉門)
※神奈中バスターミナル前 (1日1000円)

プログラム

15:00 開会式
15:15 オープニングダンス by Estilo libre
16:25 津久井湖物語 ~城山ダムと津久井湖ができるまで~
16:50 第1回 みんなのビンゴ大会
16:40 KIDS DANCE & ハモネブ SHOW!
Ka Mukanani Aloha (カマカナアロハ) / Estilo libre (エスティロリブレ)
Hawaii Kawalers I Ke Hikianu (ハーラウカワイイオロイカヒキナ)
法政大学アカペラサークルはるまじ / DANCE LIFE feat. Link (ダンスライフフォーキングリンク)
17:45 第2回 みんなのビンゴ大会
18:30 TSUKUIKOランタン キャンدلナイト START
19:40 花火打上げ
20:30 お祭り終了

イベント、プログラムは予告なく変更になる場合がございます。
8月12日(土) 朝7:30~9:00 みんなでゴミ拾い!

みんなの津久井湖夏祭り
実施レポート

制作物

■参加型フォトブース



■イベントロゴ



■ボランティアTシャツ



みんなの津久井湖夏祭り 実施レポート

実施写真

■キッチンカーやテントでの軽食販売



■TSUKUIKOランタン キャンドルNight



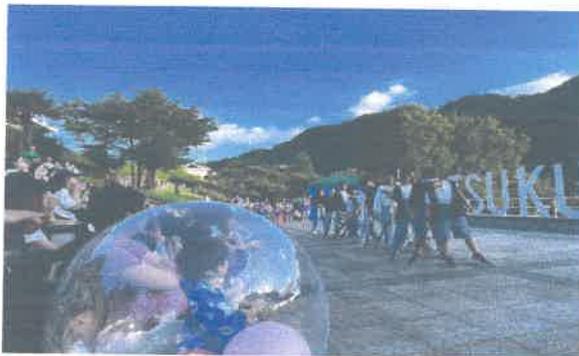
みんなの津久井湖夏祭り 実施レポート

実施写真

■伝統芸能披露



■ステージでのパフォーマンス



みんなの津久井湖夏祭り 実施レポート

実施写真

■ボランティア風景



■みんなでゴミ拾い



みんなの津久井湖夏祭り 実施レポート

実施写真

■参加型フォトブース



■花火



相模原市地域活性化事業交付金制度の概要

1 趣 旨

地域活性化事業交付金とは、幅広い層の市民の参加及び協働による地域の活性化を目指し、市民が自主的な課題解決に取り組む事業に対して交付するものです。

2 対象事業

この交付金は、城山地区の活性化に資すると認められる次の事業に対して交付します。

- ① 地域の防災・防犯に関する事業
- ② 地域の保健・健康づくりの増進に関する事業
- ③ 地域福祉の増進に関する事業
- ④ 産業や観光の振興に関する事業
- ⑤ 環境の保護・保全に関する事業
- ⑥ 青少年の健全育成に関する事業
- ⑦ 地域の文化・伝統の振興に関する事業
- ⑧ 生涯学習に関する事業
- ⑨ 地域及び地域活動の情報発信及び広報に関する事業
- ⑩ 区が推進する重点事業
- ⑪ その他地域のコミュニティづくりを目的とし、区長が特に認める事業

3 優先的な交付対象事業

城山地区において課題となっている事項の解決に資すると認められる事業で、次のような視点を持つ事業については、優先的な交付対象事業として取り扱います。

- 自治会への加入促進
- 地域における公共的な活動の担い手育成
- 公共的な活動への参加者増加
- 地域の公共的な活動団体間の連携強化
- まちづくり会議が提示した地域課題の解決

(注) 次の事業は交付対象となりません。

- 政治活動、宗教活動又は営利活動を目的とする事業
- 交付申請を行う年度において、相模原市が実施する他の補助制度等の対象となる事業
- 政策提案又は講座等の開催を主たる目的とする事業
- 調査、研究を主たる目的とする事業（地域の活性化に資する事業に繋がる計画があるものを除く）
- 第三者への事業促進を求める事業
- 上記に掲げるもののほか、区長が適当でないとする事業

4 申請者の要件

交付金の申請者は、原則として交付金の趣旨に合致する事業を行う5人以上の構成員で組織される団体とします。

5 事業の実施期間

事業の実施期間は、当該年度の4月1日から翌3月末までです。

同一の事業に継続して交付する場合には、3年を限度とします。

6 交付対象経費

交付金の交付対象経費は次のとおりです。

- ① 事業に要する消耗品費、郵便代等の通信費、印刷製本費等
- ② 事業を行う上で必要な食糧費（交付対象者の構成員に対するものを除く）、備品購入費、施設使用料、備品借上料等
- ③ 事業を行う上で必要な施設等の光熱水費等
- ④ 事業を行う上で必要な委託費等
- ⑤ イベント等の開催時に掛ける保険料、警備費等
- ⑥ 講演会等の講師に対する報償費
- ⑦ 研修会の旅費等、研修に要する経費（交付対象者の構成員個人の資質向上に対するものを除く）
- ⑧ その他事業遂行に必要な経費であって区長が必要と認めるもの

7 交付率

交付金の交付率は、対象経費の10分の10以内とします。ただし、備品（物品等で1件1万円を超えるの財産）にかかる経費の交付率は3分の2以内とします。

8 審査

申請事業の審査は、城山まちづくりセンターが審査基準に基づき行います。

審査にあたっては、まちづくり会議の意見を伺います。

【審査基準】

	項目	内容
1	事業目的や内容の公共性	・地域課題の解決や地域の活性化に資する事業か
2	事業内容の妥当性	・事業内容が現実性のあるものか ・事業計画のスキームが適切か ・事業収支が事業を遂行する上で適正か
3	団体の事業実施能力	・事業を実施する能力や主体性があるか
同一の事業で2年目・3年目となるものは上記のほか次の項目も加え、審査します。		
4	事業の継続性や発展性	・事業の継続性や発展性があるか ・これまでの取組みの成果が生かされているか
5	他の団体への影響	・他の団体へ活動を促すなど、良い波及効果を与えるような事業か

9 交付決定

審査結果に基づき、予算の範囲内で交付対象事業及び交付額を決定します。

10 実績報告

事業終了後に、実績報告書を提出していただきます。

また、実施事業の実績については、市の公式ホームページに掲載します。

11 評価の実施

事業終了後に、次年度の交付決定の参考とするため評価を行います。

【評価基準】

項目	内容	評価の視点
公共性	事業目的や内容の公共性	<ul style="list-style-type: none">・解決すべき地域課題(事業目的)は明確だったか。・設定した事業目的は、地域のニーズにマッチしていたか。・第2条第2項(優先的な対象事業)の視点を取り入れた事業であったか。
妥当性	事業内容や支出の妥当性	<ul style="list-style-type: none">・地域課題解決(事業目的達成)のための事業内容は妥当であったか。・支出は明瞭かつ妥当であったか。
継続性・自立性	団体の自立性や事業の継続性、発展性	<ul style="list-style-type: none">・事業を継続・発展させていくのに必要な人材を有しているか。・事業が主体的に実施されたか。・事業の継続に向けた自己資金の確保や事業資金調達など、自立に向けた取組が実施されたか。
波及性・発展性	事業の発展や他の団体へ与える良い影響	<ul style="list-style-type: none">・他団体の活動を促すなど、良い波及効果を与えるような事業となったか。・地域課題の解決に向けた新たな手法や新たな担い手を生み出すなど、事業の発展が見込まれるか。
目標設定	目標達成度	<ul style="list-style-type: none">・設定した目標(地域課題の解決)を達成することができたか。
区独自の視点	事業の地域性や独自性	<ul style="list-style-type: none">・区別計画に掲げる目的に沿った内容であったか。・地域特性や地域資源を生かした事業であったか。・事業目標達成のために、独自の工夫が見られたか。

相模原市地域活性化事業交付金交付要綱

(趣旨)

第 1 条 この要綱は、幅広い層の市民の参加及び協働による地域の活性化を目指し、市民が自主的な課題解決に取り組む事業に対して交付する地域活性化事業交付金(以下「交付金」という。)の交付について、相模原市補助金等に係る予算の執行に関する規則(昭和 45 年相模原市規則第 23 号。以下「規則」という。)に定めるもののほか、必要な事項を定めるものとする。

(対象事業)

第 2 条 交付金は、別表第 1 に掲げる事業で、かつ、相模原市まちづくり区域に関する規則(平成 22 年相模原市規則第 12 号)に定める区域(以下「地区」という。)を単位に実施される各地区の活性化に資すると認められる事業に対して交付する。

2 前項に規定する事業のうち、次に掲げる視点を持つものについては、優先的な対象事業として取り扱う。

- (1) 自治会への加入促進
- (2) 地域における公共的な活動の担い手育成
- (3) 公共的な活動への参加者増加
- (4) 地域の公共的な活動団体間の連携強化
- (5) まちづくり会議が提示した地域課題の解決

3 第 1 項の規定にかかわらず、次に掲げる事業は、交付対象としない。

- (1) 政治活動、宗教活動又は営利活動を目的とする事業
- (2) 交付申請を行う年度において、相模原市が実施する他の補助制度等の対象となる事業
- (3) 政策提案又は講座等の開催を主たる目的とする事業
- (4) 調査、研究を主たる目的とする事業。ただし、地域の活性化に資する事業に繋がる計画があるものを除く。
- (5) 第三者への事業促進を求める事業
- (6) 前各号に掲げるもののほか、区長が適当でないと認める事業

(対象団体)

第 3 条 交付金の交付を受けることができるものは、交付金の趣旨に合致する事業を行う 5 人以上の構成員で組織される団体とする。ただし、区長が必要と認める場合には、この限りでない。

2 前項の規定にかかわらず、次に掲げるものは、交付金の交付を受けることができない。

(1) 相模原市暴力団排除条例(平成23年相模原市条例第31号。以下「条例」という。)第2条第2号に規定する暴力団

(2) 法人のうち、代表者又は役員のうち条例第2条第3号に規定する暴力団員(以下「暴力団員」という。)に該当する者があるもの

(3) 法人格を持たない団体のうち、代表者が暴力団員に該当するもの

3 区長は、必要に応じ、申請者又は第8条の規定により補助金の交付の決定を受けたものが前項各号のいずれかに該当するか否かについて、神奈川県警察本部に対して確認を行うことができる。この場合において、市民等からの通報及び公にされている個人情報を除き、当該確認のために個人情報を神奈川県警察本部に提供するときは、本人の同意を得なければならない。

(対象経費)

第4条 交付金の対象となる経費は、別表第2に掲げる経費とする。

2 前項の規定にかかわらず、次に掲げる経費は、交付対象としない。

(1) 用地取得費

(2) 前号に掲げるもののほか、区長が適当でないと認める経費

(交付年限)

第5条 同一の事業に継続して交付する場合は、3年を限度とする。

(交付金額等)

第6条 交付金の交付及びその金額は、交付対象となる事業毎に、予算の範囲内でこれを決定し交付する。

2 前条に規定する交付金の交付率は、交付対象経費の10分の10以内とする。

ただし、事業の遂行上必要な物品その他の財産であって金額が1万円を超えるものの交付率については、3分の2以内とする。

3 前項の規定により算出した交付金の額に千円未満の端数があるときは、その端数を切り捨てるものとする。

(交付申請)

第7条 交付金の交付を受けようとする者は、地域活性化事業交付金交付申請書(第1号様式)に次に掲げる書類を添えて、区長に申請しなければならない。

(1) 地域活性化事業計画書

- (2) 収支予算書
- (3) 団体概要調書
- (4) 補助金等概要調書
- (5) 団体構成員名簿

(決定及び通知)

第8条 区長は、前条の申請があったときは、当該申請にかかる地区のまちづくり会議の意見を聴くものとする。ただし、緊急の場合及びやむを得ない事情等があると区長が認める場合は、この限りでない。

2 区長は、前項の規定によるまちづくり会議の意見を踏まえ、別に定める基準に基づき審査を行い、交付金の交付の決定をしたときは、地域活性化事業交付金交付決定通知書(第2号様式)により、不交付の決定をしたときは、地域活性化事業交付金不交付決定通知書(第3号様式)により、申請者に通知するものとする。

(計画変更)

第9条 交付決定を受けた者(以下「交付対象者」という。)が、交付対象事業の計画変更(廃止及び中止を含む。)をする場合は、遅滞なく地域活性化事業交付金変更承認申請書(第4号様式。以下「計画変更承認申請書」という。)を区長に提出しなければならない。

2 区長は、前項の計画変更承認申請書を受理したときは、変更内容を審査し、変更を承認するときは、地域活性化事業交付金変更承認決定通知書(第5号様式)により、承認しないときは、その旨を交付対象者に通知するものとする。

(実績報告)

第10条 交付対象者は、事業の終了後速やかに地域活性化事業交付金実績報告書(第6号様式)に次に掲げる書類を添えて、区長に提出しなければならない。

- (1) 収支決算書
- (2) 補助事業等実績調書
- (3) 対象経費に係る領収書等の写し
- (4) 写真その他事業の実施について確認できる書類

(交付額の確定)

第11条 区長は、前条の地域活性化事業交付金実績報告書の提出があった場合は、その内容を審査し、適正と認めるときは、速やかに交付金の額を決定するものとする。

(交付金の交付)

第12条 交付金は、前条の規定により交付すべき交付金の額を確定した後に支払うものとする。ただし、区長が特に必要があると認めるときは、概算払をすることができる。

2 交付対象者は、前項の規定により交付金の支払を受けようとするときは、地域活性化事業交付金交付請求書(概算払用)(第7号様式)又は地域活性化事業交付金交付請求書(第7号の2様式)を区長に提出しなければならない。

3 交付対象者が第1項の概算払により、交付金の交付を受けた場合には、事業完了後に、地域活性化事業交付金精算書(第8号様式)を提出しなければならない。

(財産の管理及び処分)

第13条 交付対象者は、当該交付事業が完了した後も、交付事業により取得した備品等(以下「財産」という。)を善良な管理者の注意をもって管理するとともに、交付の目的に従って、その効果的な運用を図らなければならない。

2 規則第23条第2号に規定する市長が指定するものは、取得金額が10万円以上の財産とする。

3 規則第23条ただし書に規定する市長が定める期間は、減価償却資産の耐用年数等に関する省令(昭和40年大蔵省令第15号)に定められている期間とする。

4 区長は、交付対象者が規則第23条に違反したときは、交付対象者に対して、当該違反に係る財産の返還を求めることができる。

(事業報告)

第14条 交付対象者は、事業の成果等を広く市民に周知するため、区長から求めがあったときは、区長が開催する報告会において、事業成果の報告を行うものとする。

(事業評価)

第15条 区長は、事業の終了後、別に定める基準に基づき評価を行うものとする。

(要綱の見直し)

第16条 この要綱は、社会情勢、市の財政状況及び事業の実施状況等を鑑み、3年ごとに見直すものとする。

(委任)

第17条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は区長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成30年4月1日から施行し、平成31年度分の交付金の精算から適用する。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、令和2年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 この要綱の施行の日から令和4年3月31日までの間においては、改正前の第5条第2項及び第6条第3項に規定する交付金の交付年限の特例に係る規定は、なお効力を有する。

附 則

この要綱は、令和3年1月1日から施行する。

附 則

この要綱は、令和5年4月1日から施行する。

別表第1(第2条関係)

交付対象事業	
1	地域の防災・防犯に関する事業
2	地域の保健・健康づくりの増進に関する事業
3	地域福祉の増進に関する事業
4	産業や観光の振興に関する事業
5	環境の保護・保全に関する事業
6	青少年の健全育成に関する事業
7	地域の文化・伝統の振興に関する事業
8	生涯学習に関する事業
9	地域及び地域活動の情報発信及び広報に関する事業
10	区が推進する重点事業
11	その他地域のコミュニティづくりを目的とし、区長が特に認める事業

別表第2(第4条関係)

交付対象経費	
1	事業に要する消耗品費、郵便代等の通信費、印刷製本費等
2	事業を行う上で必要な食糧費(交付対象者の構成員に対するものを除く。)、備品購入費、施設使用料、備品借上料等
3	事業を行う上で必要な施設等の光熱水費等
4	事業を行う上で必要な委託費等
5	イベント等の開催時に掛ける保険料、警備費等
6	講演会等の講師に対する報償費
7	研修会の旅費等、研修に要する経費(交付対象者の構成員個人の資質向上に対するものを除く。)
8	その他事業遂行に必要な経費であって区長が必要と認めるもの

地域活性化事業交付金申請事業に対する意見のとりまとめ方

1 意見を伺う事業について

今回意見を伺う事業については、予め城山まちづくりセンターにおいて、「相模原市補助金等に係る予算の執行に関する規則」及び「相模原市地域活性化事業交付金交付要綱」に基づき申請書及び添付書類を点検し、同規則及び同要綱に適合した事業であることを確認しております。

委員の皆さんからは、概ね次のような視点から事業に対する意見をいただきます。

- ・地域の活性化に寄与する事業か
- ・地域課題の解決に取り組む事業か
- ・事業内容が地域の特性を生かした事業か
- ・地域で類似する事業が実施されていないか
- ・事業に協力することができるか
- ・事業をより良くするために工夫できることがあるか ……など

2 意見のとりまとめの流れについて

(1) 関係委員の退室

申請事業の関係委員は、当該事業に対して意見を述べるできないので、一時退室していただきます。

(2) 時間配分

1事業あたりの時間配分は、継続事業 15分（説明5分・質疑応答5分、意見のとりまとめ5分）程度、新規事業 25分（説明10分・質疑応答10分、意見のとりまとめ5分）程度を目安としてください。

(3) 意見のとりまとめ方

- ① 事業ごとに申請者から事業の説明を受け、質疑応答を行います。質疑応答が終了した後、申請者の方は退室（関係するまちづくり会議委員も退出）しますので、質問漏れ等がないようご注意ください。
- ② 申請者の方が退室した後、委員の皆さんから事業に対する意見をお伺いします。
- ③ 委員の皆さんから出された意見を、まちづくり会議の意見としてまとめ上げていただきます。例としては次のようなものが考えられます。

- ・関係団体（自治会など）との連携を図りながら事業を進めてください
- ・多くの方が参加できるよう、PRに力を入れて事業を進めてください
- ・事業の結果についても広く周知を図ってください
- ・次年度以降は自主財源で実施していけるようなプランを検討してください ……など

3 とりまとめていただいた意見について

まちづくり会議での意見を踏まえ、城山まちづくりセンターにおいて、地域活性化事業交付金審査基準（裏面参照）に基づき審査を行い、交付金の交付（不交付）決定を行います。

また、まちづくり会議での意見は申請者の方にお伝えする他、市の公式ホームページ（城山地区まちづくり会議「会議結果報告」）に掲載します。

(地域活性化事業交付金交付要綱第8条第2項関係)

地域活性化事業交付金審査基準(1年目)

No.	内容	審査の視点
1	事業目的や内容の公共性	・地域課題の解決や地域の活性化に資する事業か。
2	事業内容の妥当性	・事業内容が現実性のあるものか。 ・事業計画のスキームが適切か。 ・事業収支が事業を遂行する上で適正か。
3	団体の事業実施能力	・事業を実施する能力や主体性があるか。

地域活性化事業交付金審査基準(2年目・3年目)

No.	内容	審査の視点
1	事業目的や内容の公共性	・地域課題の解決や地域の活性化に資する事業か。
2	事業内容の妥当性	・事業内容が現実性のあるものか。 ・事業計画のスキームが適切か。 ・事業収支が事業を遂行する上で適正か。
3	団体の事業実施能力	・事業を実施する能力や主体性があるか。
4	事業の継続性や発展性	・事業の継続性や発展性があるか。 ・これまでの取組みの成果が生かされているか。
5	他の団体への影響	・他の団体へ活動を促すなど、良い波及効果を与えるような事業か。

意見のとりまとめ例

- ・ 段階的に自立、発展、充実が図られるような事業形成をめざしてください。
- ・ 4年目以降も事業が継続できるように自主財源の確保ができる事業計画にしてください。
- ・ 城山地区の多くの住民が参加できるよう城山地区内への広報・PRを強化してください。
- ・ メディアやSNS等を活用し、城山地区のPR・情報発信に取り組んでください。
- ・ 実施にあたっては、関係機関と十分調整・連絡を図ってください。
- ・ 安全面には十分配慮して実施してください。
- ・ 開催時間等、より多くの人に参加しやすい環境を検討してください。

令和6年度 地域活性化事業交付金 申請事業一覧表 【城山地区】

(単位:円)

No.	事業名	団体名	代表者	新規・継続の別	総事業費	申請額
1	しろやま土曜寺子屋活動	しろやま土曜寺子屋実行委員会	代表 高野 良彦	新規	331,000	331,000
2	若葉台を含む城山地域の防災・減災プロジェクト①	若葉台住宅を考える会	代表 柳井 正晴	新規	400,000	300,000
3	みんなの津久井湖夏祭り	みんなの津久井湖夏祭り実行委員会	実行委員長 宮寄 太樹	継続2年目	3,085,000	400,000
4	しろやま☆おせっかい	城山地区まちづくり会議 高齢者とともに築き支える地域づくり部会	部会長 林 和博	継続3年目	160,000	160,000
5	あつまれ～しろやまっこ！	城山地区まちづくり会議 子どもたちの主体性を育む地域づくり部会	部会長 金子 直美	新規	108,000	108,000
					4,084,000	1,299,000

令和6年度 地域活性化事業交付金 申請事業概要シート

事業名	しろやま土曜寺子屋活動		新規		
申請者	しろやま土曜寺子屋実行委員会		代表 高野 良彦		
総事業費	331,000	交付金申請額	331,000		
事業実施の背景や地域の現状と課題	子どもたちが学校での学習を通して、もっと広く深く学習してみたいと思ったり、逆に苦手意識を持つようになっていたりしていると思われる。そこで、小学校時代という早い段階から地区内のそういう子どもたちに対して、地域の大人たちができる支援に取り組みたい。また、地縁的なつながりや共通の価値観が希薄化しており、地域のコミュニティづくりの必要性が高まっている。				
事業の目的	地域の子どもは地域で育てるという考えのもとに、地域の子どもたちが進んで学習しようとする場と機会を提供し、地域の大人たちが子どもたちに寄り添いながら学習の支援をするという具体的な活動を通して、子どもたちと子どもたちに寄り添う大人たちとのコミュニケーションづくりをする。また子どもに寄り添う大人同士のコミュニケーションづくりなど、希薄になっていると言われている地域の絆づくり、人と人との関係性、すなわち地域のコミュニティづくりを促進することを事業の目的とする。				
事業内容	城山地域内の小学校や公民館などを会場にして、毎週土曜の午前中2時間程度、地域の大人（城山に在住または通勤、通学している高校生以上の人）が子どもたちに寄り添って学習を支援していくものであり、学校教育に関する学習に加え、地域の文化・伝統を学ぶ機会を設け、地域への愛着心を育てる。				
事業スケジュール	R5年4月 ボランティア組織の立ち上げ 活動内の目的や内容の検討など R5年6月 城山地区内の小学校へ趣旨の説明及び依頼 R5年9月 ボランティア活動の周知等の検討 R5年12月 城山地域情報誌への活動の周知等原稿掲載依頼 R6年2月 相模原城山高等学校へボランティア協力への依頼 R6年3月 城山地区内の小学校へ児童及び保護者あて案内配付依頼 R6年5月 毎土曜午前中2時間ボランティア活動スタート R6年6月 ※2か月ごとにボランティア活動について振り返り ※年度末に次年度に向けての活動の検討				
次年度以降の事業計画及び事業展望	基本的には、実行委員会が中心になってボランティア活動を継続展開していく。活動が軌道に乗るようであれば、地域の青少年団体等とも連携協力を検討していきたい。また、それぞれの学校のPTA組織と連携できる範囲で連携、協力を図るようにしたい。できれば、地域の学校ごとにそれぞれ学習する会場にしてこのボランティア活動を発展させ、展開できるとよいと考えている。				
交付金の対象事業	青少年の健全育成に関する事業（要綱第2条第1項別表第1-6該当）				
重点項目	地域における公共的な活動の担い手育成（要綱第2条第2項第2号該当）				
収入の部			支出の部		
費目	金額	説明	費目	金額	説明
市交付金	331,000		報償費	240,000	図書券500円×10人×48回
			消耗品費	30,000	用紙、筆記用具等
			印刷製本費	30,000	活動周知案内等用紙代、インク代
			通信費	10,000	切手、封筒代
			使用料	21,000	公民館会議室使用料
合計	331,000		合計	331,000	

地域活性化事業計画書

○申請者 高野 良彦

団体名 しろやま土曜寺子屋実行委員会

代表者の役職及び氏名 実行委員会代表・高野 良彦

代表者の住所又は所在地 相模原市緑区

担当者連絡先

(氏名、電話番号、FAX番号、電子メール)

○事業名 (事業の名称を記載してください。)

しろやま土曜寺子屋活動 (地区内の小学生を対象に学習をサポートするボランティア活動を通して地域の絆づくりを促進する活動)

○事業実施の背景や地域の現状と課題 (地域で困っていることや活性化が必要なことなど、事業を実施することとなった背景事情を記述してください。)

子どもたちが学校での学習を通して、もっと広く深く学習してみたいと思ったり、逆に苦手意識を持つようになっていたりしていると思われる。

そこで、小学校時代という早い段階から地区内のそういう子どもたちに対して、地域の大人たちができる支援に取り組みたい。

また、地縁的なつながりや共通の価値観が希薄化しており、地域のコミュニティづくりの必要性が高まっている。

○事業の目的 (事業の実施により達成しようとする目的を記述してください。)

地域の子どもは地域で育てるという考えのもとに、地域の子どもたちが進んで学習しようとする場と機会を提供し、地域の大人たちが子どもたちに寄り添いながら学習の支援をするという具体的な活動を通して、子どもたちと子どもたちに寄り添う大人たちとのコミュニケーションづくりをする。また子どもに寄り添う大人同士のコミュニケーションづくりなど、希薄になっていると言われている地域の絆づくり、人と人との関係性、すなわち地域のコミュニティづくりを促進することを事業の目的とする。

○事業内容 (当該事業の具体的な内容を記述してください。)

城山地域内の小学校や公民館などを会場にして、毎週土曜の午前中2時間程度、地域の大人(城山に在住または通勤、通学している高校生以上の人)が子どもたちに寄り添って学習を支援していくものであり、学校教育に関する学習に加え、地域の文化・伝統を学ぶ機会を設け、地域への愛着心を育てる。

○事業スケジュール（実施の時期と内容を記入してください。）

実施時期	実施内容	備考
令和5年4月	ボランティア組織の立ち上げ 活動内の目的や内容の検討など	
令和5年6月	城山地区内の小学校へ趣旨の説明及び依頼	
令和5年9月	ボランティア活動の周知等の検討	
令和5年12月	城山地域情報誌への活動の周知等原稿掲載依頼	
令和6年2月	城山地域情報誌に活動の周知及び協力者募集の記事掲載	
令和6年3月	相模原城山高等学校へボランティア協力への依頼	
令和6年5月	城山地区内の小学校へ児童及び保護者あて案内配付依頼	
令和6年6月	毎土曜午前中2時間ボランティア活動スタート	
	※2か月ごとにボランティア活動について振り返り	
	※年度末に次年度に向けての活動の検討	

○次年度以降の事業計画及び事業展望（次年度以降の事業計画、事業の拡大、他の地域や他団体への広がりなどを記述してください。）

基本的には、実行委員会が中心になってボランティア活動を継続展開していく。活動が軌道に乗るようであれば、地域の青少年団体等とも連携協力を検討していきたい。

また、それぞれの学校のPTA組織と連携できる範囲で連携、協力を図るようにしたい。できれば、地域の学校ごとにそれぞれ学習する会場にしてこのボランティア活動を発展させ、展開できるとよいと考えている。

○総事業費

・予算総額：331,000円 ・(内交付金申請見込額)：331,000円

○事業実施の背景や地域の現状と課題をどのように捉えたか（当該事業の実施が必要な状況の発生源にチェックしてください。複数回答可能。）

- 自己認識（自分でそう感じている）
- 話合い（地域の複数人がそう感じている。）
- 調査（アンケート調査や聞き取り調査を行った。）
- 先進事例（他地域や他市町村等で取り組まれている。）
- 社会的課題（ニュースや新聞等で話題になっている。）
- その他（内容： ）

検討経過や調査、研究の内容、先進事例などの具体的内容：

○交付金の対象事業（交付金の対象となる事業のうち、どの項目に該当すると考えているかチェックしてください。）

- 地域の防災・防犯に関する事業
- 地域の保健・健康づくりの増進に関する事業
- 地域福祉の増進に関する事業
- 産業や観光の振興に関する事業
- 環境の保護・保全に関する事業
- 青少年の健全育成に関する事業
- 地域の文化・伝統の振興に関する事業
- 生涯学習に関する事業
- 地域及び地域活動の情報発信及び広報に関する事業
- 区が推進する重点事業
- その他地域のコミュニティづくりを目的とし、区長が特に認める事業

○事業の状況（新規事業か既存事業のリニューアルかチェックしてください。）

- 新規 既存 既存事業の拡大

過去の地域活性化事業交付金の交付状況： 有（交付年度 年）・ 無

他の市の補助制度の交付状況： 有（交付年度 年）・ 無

○重点項目（当該事業が要綱の優先的な対象事業に該当する場合は、その項目にチェックし、具体的な内容を記述してください。）

- 自治会加入促進

具体的内容：

- 地域における公共的な活動の担い手育成

具体的内容：

ボランティアとして高校生以上の大人を考えているが、小学生を対象に学習を手助けすることを通して、子どもたちとの関り、またボランティア同士の関り等を通して望ましいコミュニケーション関係を構築できることが、将来の地域の担い手を育成することに繋がると考える。

- 公共的な活動への参加者増加

具体的内容：

教育はその専門家である学校や先生方を信頼して委ねることが大事であるが、その学校教育を側面から支援していくことが、具体的な活動である。学校と望ましい協力関係の中で、この活動に取り組みたい。

また、このボランティア活動の目的のもとに参加者や協力者を募っていくことで、地域の絆づくり、コミュニケーションづくりにつなげ、活動を発展させたい。

- 地域の公共的な活動団体間の連携強化

具体的内容：

この活動の性質上、学校の協力は不可欠であり、また子供を参加させるうえで保護者の理解は必要である。そのため、常に学校やPTAあるいは地域の青少年団体等との連携を考えていきたい。

さらには活動が継続する中で、自治会等にも理解、協力をお願いしたいと考える。

まちづくり会議が提示した地域課題の解決

具体的内容：

○事業実施及び結果の情報発信方法（該当する項目にチェックしてください。複数回答可能。）

地域情報紙 団体の会報など 団体のホームページ 新聞等への情報提供

その他（子どもたちや保護者あての案内通知を配付）

○その他（事業の実施体制や役割分担、事業実施上の課題などがあれば、記入してください。）

令和6年度 収支予算書

1 収入の部

科 目	本年度予算額 (A)	前年度予算額 (B)	増 減 (A) - (B)	説 明
市交付金	331,000円	0円	331,000円	
収入合計	331,000円	0円	331,000円	

2 支出の部

科 目	本年度予算額 (A)	前年度予算額 (B)	増 減 (A) - (B)	説 明
報償費	240,000円	0円	240,000円	図書券500円×10人×48回
消耗品費	30,000円	0円	30,000円	活動で使用する用紙、筆記用具、マジック等
印刷製本費	30,000円	0円	30,000円	活動周知案内等用紙代、インク代
通信費	10,000円	0円	10,000円	切手、封筒代
使用料	21,000円	0円	21,000円	公民館会議室使用料
支出合計	331,000円	0円	331,000円	

※特別経費：交付対象経費のうち1万円を超える財産を購入する場合は、この欄に記入

団体概要調書

○団体の名称

しろやま土曜寺子屋実行委員会

○団体所在地、電話（団体としての所在地が無い場合は、代表者の住所、電話を記入）

所在地 相模原市緑区

電話

○代表者の役職名及び氏名

代表・高野 良彦

○団体のHP

なし

○団体の目的

地域の子どもたちの健全育成に寄与することを通して地域の絆づくりを促進する。

○設立年月 2023年4月に組織を立ち上げる。

（活動開始年月） 2024年6月から活動を開始する。

○会員数

実行委員会5名及び協力者多数

○主な活動分野

① 保健・医療・福祉

② 社会教育

③ まちづくり

④ 観光

⑤ 農山漁村又は中山間地域の振興

⑥ 学術・文化・芸術・スポーツ

⑦ 環境保全

⑧ 災害救助

⑨ 地域安全

⑩ 人権・平和

⑪ 国際協力

⑫ 男女共同参画

⑬ 子どもの健全育成

⑭ 情報化社会

⑮ 科学技術

⑯ 経済活動

⑰ 職業能力開発・雇用機会

⑱ 消費者保護

⑲ 非営利活動支援

⑳ その他（ ）

○主な活動場所

城山地区内の小学校や公民館を会場にして活動。

○主な活動内容

基本的に毎週土曜日の午前中2時間程度。

※団体構成員名簿の提出及び会則、規約等がある場合には、添付をお願いします。

令和6年度 地域活性化事業交付金 申請事業概要シート

事業名	若葉台を含む城山地域の防災・減災プロジェクト①		新規
申請者	若葉台住宅を考える会 代表 柳井 正晴		
総事業費	400,000	交付金申請額	300,000
事業実施の背景や地域の現状と課題	<p>城山地区は地域住民の防災意識がまだ高いとは言えず、現状では災害時に生き残るための行動や助け合うためのつながりがつられていないのが現状です。</p> <p>さらに、高齢化率が約60%の若葉台地域においては、多世代の防災コミュニティづくりや防災意識の向上に加え、個々にあわせた避難計画の策定、地域内外の防災ネットワークづくり、そして次世代の担い手の育成が急務です。</p> <p>そこで、能登半島大地震発生を教訓と捉え、専門家による防災・減災対策として実践型の学ぶ場(講座やワークショップ)を設けます。そこで過去に起きた被災地支援を行った経験や情報を得る事で、生き残るための知識や知恵、技を身につけると共に地域内外の防災ネットワークづくりと地域の防災力の向上をはかります。</p> <p>未来に起きる可能性が高い関東直下型大地震や豪雨災害の被災による「死者0」を目指し、子育て世代～高齢者までの多世代で防災・減災を学ぶ機会をつくります。</p>		
事業の目的	<p>多世代向けの防災イベントや講座・ワークショップを通じて、住民ひとりひとりが“「もしも」から「いつでも」の備え”をしてもらい、地域全体の防災意識の向上を図ります。また地域内外(若葉台・城山地区・周辺地域・全国各地)の多世代による防災コミュニティ×防災ネットワークづくりをすることを目的にこの計画を実施します。そして、3年計画で城山地区において防災活動に関する多世代の担い手作りを事業の最終目的とします。</p>		
事業内容	<p>本年度は、春・秋の年2回の防災イベント、講座&ワークショップを地域内外の多様な団体や専門家と協働実施します。3.11東日本大震災や能登半島大地震などの体験談や写真パネルに加え、多世代が参加できる防災×あそび、時系列(災害発生・脱出・避難・避難場所・避難所生活など)による様々な体験型の防災ワークショップ、身近なモノをつかった衣食住の防災サバイバル術や0次・1次・2次の備えや地域資源などを学びあいます。</p> <p>また、その過程で、地域内外の防災コミュニティやネットワークづくりも行います。</p> <p>①春の防災イベント「あそぼうさい」 場所：若葉台小栗公園 対象：親子～高齢者まで *主に5才～12才の子どもと家族 内容：知識だけでなく、「やっている！やったことがある！」体験型の防災ワークショップを実施する。地域内外の多様な団体や専門家連携し、あそび場と防災を組み合わせ、子育て世代や子どもたちが参加しやすいイベントにする。また、参加者にLINE登録してもらい、今後の情報発信をしていく。 【ワークショップ例】 ・太陽光発電について学ぼう！備えよう！ ・非常用簡易トイレを実際に使ってみよう！ ・ペットボトルや段ボール、紙や袋など身近なモノでサバイバル！ ・体をつかった防災あそび(じじじ地震だゲーム) など</p> <p>②秋の防災講座・ワークショップ「のむ・くう・だす」 場所：若葉台自治会館 対象：親子～高齢者まで 内容：生き残るための水の確保、災害時の上下水問題、非常食体験、非常時のトイレ処理方法やトラブルなど、のむ・くう・だすをテーマにした防災講座・ワークショップを実施する。非常食体験では、いろいろなアレンジレシピや食材を食べ比べ、ローリングストックを学ぶ。また、紙食器づくりやペットボトルスプーンなども体験し、食とトイレの備えをしてもらう。</p>		

事業 スケジュール	4月	関係団体や施設調整・会場予約・ボランティア手配・コンテンツ決定・チラシの制作・行政手続き等			
	5月	チラシ配布、実施体制、レイアウト決定、運営マニュアル作成等			
	6月	①春の防災イベント「あそぼうさい」 ふりかえりフィードバック、次回にむけての会議			
	9月	関係団体や施設調整・会場予約・コンテンツ決定 等 チラシの制作・行政手続きチラシ配布、実施体制、レイアウト決定、運営マニュアル作成 等			
	10月	②秋の防災講座・ワークショップ「のむ・くう・だす」			
	11月	ふりかえりフィードバック、関係団体との調整等			
	1月	全国防災ネットへの参加検討			
	3月	ふりかえりフィードバック、次年度にむけての検討会議、 予算策定、年度報告書作成			
次年度以降の 事業計画及び 事業展望	<p>【2年目】若葉台を含む城山地域の防災・減災プロジェクト②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資源MAP巡り。まち歩きやまちの拠点をまわる防災まち縁足（縁も育まれる） ・1泊2日の防災宿泊体験キャンプの実施（レベル別の避難所シュミレーション） 第一回目1回目は体育館、自治会館など屋内での臨時宿泊を想定 ・住民（主に子育て世代）の防災×あそび場の担い手育成→防災イベントの企画運営 <p>【3年目】若葉台を含む城山地域の防災・減災プロジェクト③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・城山地区を中心にした多様な分野の防災ネットワークの構築 ・他団体・個人への様々なノウハウを共有し、城山地域全体の防災力向上をめざす ・若葉台自治会、若葉台自主防災隊、若葉台防災ボランティア隊がこの活動をサポート。 				
交付金の 対象事業	地域の防災・防犯に関する事業（要綱第2条第1項別表第1-1該当）				
重点項目	地域における公共的な活動の担い手育成（要綱第2条第2項第2号該当）				
収入の部			支出の部		
費目	金額	説明	費目	金額	説明
市交付金	300,000		報償費	120,000	講師謝礼
雑入	100,000	会費・寄付	消耗品費	80,000	防災ワークショップ消耗品（展示非常食、保存水、非常時トイレ製作、文房具、掲示板製作など）
			食料費	30,000	ボランティアスタッフ弁当代
			印刷製本費	16,000	チラシ印刷代
			旅費	50,000	講師 10,000円 学生ボランティア 2,000円
			委託料	4,000	チラシデザイン委託料
			備品借上料	100,000	仮設トイレ 80,000円 防災ワークショップ備品 20,000円
合計	400,000		合計	400,000	

地域活性化事業計画書

○申請者

団体名 若葉台住宅を考える会

代表者の役職及び氏名 代表 柳井 正晴

代表者の住所又は所在地 相模原市緑区

担当者連絡先

(氏名、電話番号、FAX番号、電子メール)

○事業名

若葉台を含む城山地域の防災・減災プロジェクト① ～『知っている』から『やっている』防災へ～

○事業実施の背景や地域の現状と課題

城山地区は地域住民の防災意識がまだ高いとは言えず、現状では災害時に生き残るための行動や助け合うためのつながりがつुकれていないのが現状です。

さらに、高齢化率が約60%の若葉台地域においては、多世代の防災コミュニティづくりや防災意識の向上に加え、個々にあわせた避難計画の策定、地域内外の防災ネットワークづくり、そして次世代の担い手の育成が急務です。

そこで、能登半島大地震発生を教訓と捉え、専門家による防災・減災対策として実践型の学ぶ場(講座やワークショップ)を設けます。そこで過去に起きた被災地支援を行った経験や情報を得る事で、生き残るための知識や知恵、技を身につけると共に地域内外の防災ネットワークづくりと地域の防災力の向上をはかります。

未来に起きる可能性が高い関東直下型大地震や豪雨災害の被災による「死者0」を目指し、子育て世代～高齢者までの多世代で防災・減災を学ぶ機会をつくります。

○事業の目的

多世代向けの防災イベントや講座・ワークショップを通じて、住民ひとりひとりが“「もしも」から「いつでも」の備え”をしてもらい、地域全体の防災意識の向上を図ります。また地域内外(若葉台・城山地区・周辺地域・全国各地)の多世代による防災コミュニティ×防災ネットワークづくりをすることを目的にこの計画を実施します。そして、3年計画で城山地区において防災活動に関する多世代の担い手作りを事業の最終目的とします。

○事業内容(当該事業の具体的な内容を記述してください。)

本年度は、春・秋の年2回の防災イベント、講座&ワークショップを地域内外の多様な団体や専門家と協働実施します。3.11東日本大震災や能登半島大地震などの体験談や写真パネルに加え、多世代が参加できる防災×あそび、時系列(災害発生・脱出・避難・避難場所・避難所生活など)による様々な体験型の防災ワークショップ、身近なモノをつかった衣食住の防災サバイバル術や0次・1次・2次の備えや地域資源などを学びあいます。

また、その過程で、地域内外の防災コミュニティやネットワークづくりも行います。

①春の防災イベント「あそぼうさい」

場所:若葉台小栗公園

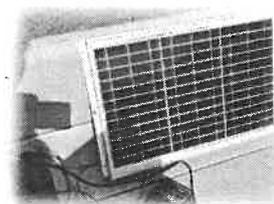
対象:親子～高齢者まで *主に5才～12才の子どもと家族

内容:知識だけでなく、「やっている! やったことがある!」体験型の防災ワークショップを実施する。地域内外の多様な団体や専門家連携し、あそび場と防災を組み合わせ、子育て世代や子どもたちが参加しやすいイベントにする。また、参加者にLINE登録してもらい、今後の情報発信をしていく。



【ワークショップ例】

- ・太陽光発電について学ぼう! 備えよう!
- ・非常用簡易トイレを実際に使ってみよう!
- ・ペットボトルや段ボール、紙や袋など身近なモノでサバイバル!
- ・体をつかった防災あそび(じじじ地震だゲーム) など



②秋の防災講座・ワークショップ「のむ・くう・だす」

場所:若葉台自治会館

対象:親子～高齢者まで

内容:生き残るための水の確保、災害時の上下水問題、非常食体験、非常時のトイレ処理方法やトラブルなど、のむ・くう・だすをテーマにした防災講座・ワークショップを実施する。

非常食体験では、いろいろなアレンジレシピや食材を食べ比べ、ローリングストックを学ぶ。また、紙食器づくりやペットボトルスプーンなども体験し、食とトイレの備えをしてもらう。



○事業スケジュール（実施の時期と内容を記入してください。）

実施時期	実施内容	備考
4月	関係団体や施設調整・会場予約・ボランティア手配・コンテンツ決定・チラシの制作・行政手続き等	月1～2回定例会オンラインMTG
5月	チラシ配布、実施体制、レイアウト決定、運営マニュアル作成等 ①春の防災イベント「あそぼうさい」	同上 直前M
6月	ふりかえりフィードバック、次回にむけての会議 関係団体や施設調整・会場予約・コンテンツ決定 等	月1～2回定例会オンラインMTG
7月		同上
8月		同上
9月	チラシの制作・行政手続きチラシ配布、実施体制、レイアウト決定、運営マニュアル作成 等	同上
10月	②秋の防災講座・ワークショップ「のむ・くう・だす」	月1～2回定例会オンラインMTG 直前M
11月	ふりかえりフィードバック、関係団体との調整等	同上
12月		同上
1月	全国防災ネットへの参加検討	同上
2月		同上
3月	ふりかえりフィードバック、次年度にむけての検討会議、 予算策定、年度報告書作成	同上

○次年度以降の事業計画及び事業展望（次年度以降の事業計画、事業の拡大、他の地域や他団体への広がりなどを記述してください。）

【2年目】若葉台を含む城山地域の防災・減災プロジェクト②

- ・資源MAP巡り。まち歩きやまちの拠点をまわる防災まち縁足（縁も育まれる）
- ・1泊2日の防災宿泊体験キャンプの実施（レベル別の避難所シミュレーション）
第一回目1回目は体育館、自治会館など屋内での臨時宿泊を想定
- ・住民（主に子育て世代）の防災×あそび場の担い手育成→防災イベントの企画運営

【3年目】若葉台を含む城山地域の防災・減災プロジェクト③

- ・城山地区を中心にした多様な分野の防災ネットワークの構築
他団体・個人への様々なノウハウを共有し、城山地域全体の防災力向上をめざす
- ・若葉台自治会、若葉台自主防災隊、若葉台防災ボランティア隊がこの活動をサポート。

○初年度総事業費

- ・予算総額： 400,000円
(内交付金申請見込額)：300,000円

○事業実施の背景や地域の現状と課題をどのように捉えたか（当該事業の実施が必要な状況の発生源にチェックしてください。複数回答可能。）

- 自己認識（自分でそう感じている）
話し合い（地域の複数人がそう感じている。）
調査（アンケート調査や聞き取り調査を行った。）
先進事例（他地域や他市町村等で取り組まれている。）
社会的課題（ニュースや新聞等で話題になっている。）
その他（内容： 若葉台の超高齢化 住民の半数が後期高齢者は能登に匹敵する）

検討経過や調査、研究の内容、先進事例などの具体的内容：

若葉台地区では「この地域は安全」ととらえ、備蓄もほとんどしていないかごく少量のご家庭が多いようであるが、大災害発生時に助けを期待できない状態、水も電気もない、食料もない薬もない環境で3日とか一週間を生き抜くには健康状態が持たない方も多い様に見受けられる。

特に高齢者に向けては食事や薬課題について、自助努力をもっともっと啓蒙する必要があると思われる。

○交付金の対象事業（交付金の対象となる事業のうち、どの項目に該当すると考えているかチェックしてください。）

- 地域の防災・防犯に関する事業
地域の保健・健康づくりの増進に関する事業
地域福祉の増進に関する事業
産業や観光の振興に関する事業
環境の保護・保全に関する事業
青少年の健全育成に関する事業
地域の文化・伝統の振興に関する事業
生涯学習に関する事業
地域及び地域活動の情報発信及び広報に関する事業
区が推進する重点事業
その他地域のコミュニティづくりを目的とし、区長が特に認める事業

○事業の状況（新規事業か既存事業のリニューアルかチェックしてください。）

- 新規 既存 既存事業の拡大

過去の地域活性化事業交付金の交付状況：有（交付年度 R1,2,4 年地域魅力作り） 無

他の市の補助制度の交付状況：有（交付年度 年）・無

○重点項目（当該事業が要綱の優先的な対象事業に該当する場合は、その項目にチェックし、具体的な内容を記述してください。）

自治会加入促進

具体的内容： 新入居の子どもがいる若い世代の未加入者に対して加入促進が図れる
（若葉台全体では既に90%以上の加入率である）

地域における公共的な活動の担い手育成

具体的内容： 新入居の子どもがいる若い世代の未加入者に対して公共的な活動に興味を持ってもらえる期待ができる

公共的な活動への参加者増加

具体的内容： 新入居の子どもがいる若い世代の未加入者に対して公共的な活動に興味を持ってもらえる期待が出来る

地域の公共的な活動団体間の連携強化

具体的内容： 地域内自治会自主防災隊や福祉団体と連携強化が図れる

まちづくり会議が提示した地域課題の解決

具体的内容： 高齢者に対する「しろやま☆おせっかい」活動に関連する事業である
子ども達の主体性を重んじる「あつまれ しろやまっこ」活動に関連する事業

○事業実施及び結果の情報発信方法（該当する項目にチェックしてください。複数回答可能。）

地域情報紙 団体の会報など 団体のホームページ 新聞等への情報提供

その他（地域内の掲示板、商店の掲示板、学校や各種関係団体にチラシ配布）

○その他（事業の実施体制や役割分担、事業実施上の課題などがあれば、記入してください。）

市民活動団体、NPO、大学、専門家による防災ネットワークの構築

【防災活動家&移動式あそび場 星野 諭 氏】

NPO法人子どもの居場所づくり・相模原理事、移動式あそび場全国ネットワーク代表（プレイワーカー／一級建築士／イベントプロデューサー／地域コーディネーター／こども防災活動家）NHKの防災イベントや東京都防災教育プログラムづくり、3.11 東日本大震災や能登半島大震災、台風 19 号などの災害支援や避難所運営など関わる。全国各地で年間 50 回程度、防災イベントや防災講座・ワークショップを実施している。

【まちづくり&ワークショップ専門家 今井 邦人 氏】

財)日本総合研究所の主席研究員、各自治体や自治会、地域のまちづくりのファシリテーター、まちづくりアドバイザー主に住宅政策、都市及び地方計画を中心とするインフラ関係、自治体政策及び条例策定の支援、官民連携・市民協働のまちづくり等に関連する調査研究など、宅建士

【環境相模原の会】

地元の市民活動団体。この地域の豊かな自然環境を守り、災害時の被害を最小限に留めることによる安心安全な街づくり。速やかに化石燃料等をすみやかに減らし自然エネルギーへ転換する道筋を全国の環境団体と連携して発信をしている。今回はポータブル太陽光発電の効用について紹介してもらいます。

【法政大学 ソーシャル・イノベーションセンター】

多摩キャンパス内にある組織。近隣地域における学生主体の多様な連携事業をコーディネートし学生の学びと自立、地域貢献を目指した支援センター

令和6年度 収支予算書

1 収入の部

科 目	本年度予算額 (A)	前年度予算額 (B)	増 減 (A) - (B)	説 明
市交付金	300,000円	0円	300,000円	
雑入	100,000円	0円	100,000円	会費、寄付金
収入合計	400,000円	0円	400,000円	

2 支出の部

科 目	本年度予算額 (A)	前年度予算額 (B)	増 減 (A) - (B)	説 明
報償費	120,000円	0円	120,000円	講師謝礼
消耗品費	80,000円	0円	80,000円	防災ワークショップ消耗品 (展示非常食、保存水、非常時トイレ製作、文房具、 掲示板製作など)
食糧費	30,000円	0円	30,000円	ボランティアスタッフ弁当代
印刷製本費	16,000円	0円	16,000円	チラシ印刷代
旅費	50,000円	0円	50,000円	講師 10,000円 学生ボランティア 2,000円
委託料	4,000円	0円	4,000円	チラシデザイン委託料
備品借上料	100,000円	0円	100,000円	仮設トイレ 80,000円 防災ワークショップ備品 20,000円
支出合計	400,000円	0円	400,000円	

※特別経費：交付対象経費のうち1万円を超える財産を購入する場合は、この欄に記入

団 体 概 要 調 書

○団体の名称

(相模原市まちづくり推進条例認定団体)
若葉台住宅を考える会

○団体所在地、電話（団体としての所在地が無い場合は、代表者の住所、電話を記入）

所在地 (代表 住所) 相模原市緑区
電 話 (代表 電話)

○代表者の役職名及び氏名

代表 柳井 正晴

○団体のHP

<https://www.sagamihara-wakabadai.com>

○団体の目的

超、超高齢化若葉台住宅団地の活性化、永続化

○設立年月

(活動開始年月) 平成29年3月1日

○会員数

84名 (正会員26、賛助会員58)

○主な活動分野

- | | |
|--|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> ① 保健・医療・福祉 | <input type="checkbox"/> ⑪ 国際協力 |
| <input type="checkbox"/> ② 社会教育 | <input type="checkbox"/> ⑫ 男女共同参画 |
| <input checked="" type="checkbox"/> ③ まちづくり | <input checked="" type="checkbox"/> ⑬ 子どもの健全育成 |
| <input type="checkbox"/> ④ 観光 | <input type="checkbox"/> ⑭ 情報化社会 |
| <input type="checkbox"/> ⑤ 農山漁村又は中山間地域の振興 | <input type="checkbox"/> ⑮ 科学技術 |
| <input type="checkbox"/> ⑥ 学術・文化・芸術・スポーツ | <input type="checkbox"/> ⑯ 経済活動 |
| <input type="checkbox"/> ⑦ 環境保全 | <input type="checkbox"/> ⑰ 職業能力開発・雇用機会 |
| <input type="checkbox"/> ⑧ 災害救助 | <input type="checkbox"/> ⑱ 消費者保護 |
| <input checked="" type="checkbox"/> ⑨ 地域安全 | <input type="checkbox"/> ⑲ 非営利活動支援 |
| <input type="checkbox"/> ⑩ 人権・平和 | <input type="checkbox"/> ⑳ その他 () |

○主な活動場所

若葉台住宅地区、若葉台自治会館、住民交流の場YYわかば

○主な活動内容

超高齢化住宅団地の再生活動
若葉台住宅の魅力情報の発信
若葉台住宅の新しい魅力作り

※会則、規約等がある場合には、添付をお願いします。

令和6年度 地域活性化事業交付金 申請事業概要シート

事業名	みんなの津久井湖夏祭り	継続2年目
申請者	みんなの津久井湖夏祭り実行委員会	実行委員長 宮寄 太樹
総事業費	3,085,000	交付金申請額 400,000
事業実施の背景や地域の現状と課題	<p>①津久井湖城山公園（水の苑地）は城山地区の中で代表する風向明媚な観光スポットであるが、地区外の方の知名度が低く、津久井湖城山公園（花の苑地）に比べ観光施設が無いことや、イベントも少ないことから観光客が少ない。このことから水の苑地を活用したイベントを実施することにより、地域の魅力を発信し、知名度の向上を図り、地域の活性化につなげていく。</p> <p>②旧津久井郡は深刻な人口減少と高齢化が進んでいることから新たな魅力を創出する必要がある。</p> <p>③城山地区では各地域において様々なイベントが開催され、多くの地域においてスタッフの高齢化が進み、イベントの縮小や廃止がおきていることから、若手のリーダーや地域における公共的な活動の担い手の育成が必要である。</p>	
事業の目的	<p>①本イベントを通じて津久井湖（水の苑地）とその周辺の美しい里地里山の魅力と城山地区の伝統文化を知っていただく。</p> <p>②このイベントは若者が中心になって、広くボランティアを募り市民参加型のイベントを目的としている。（実行委員長が20代男性、実行委員会メンバーの半分は女性）。また大学生のボランティアも昨年は60名と多かった。本イベントを通じて若手スタッフが育ち、地域における公共的な活動の担い手となって活動することを目指す。</p> <p>③出店は一般公募とするが、地元の飲食店に声掛けし優先的に出店していただき、地域の経済活動の活性化の一助となることを目指す。</p> <p>④本イベントを城山のイベントから緑区全体のイベントとなるよう城山地区以外の出展者、イベント参加者に広く広げて行く。また城山地区以外の団体とも本イベントに参加していただき、地域の活性化を目指す。</p>	
事業内容	<p>(1) 伝統芸能披露(お囃子の演奏等)</p> <p>(2) キッチンカーやテントでの軽食及びフリーマーケットによる衣類や雑貨等の販売</p> <p>(3) ステージでのパフォーマンス</p> <p>(4) ランタンキャンドルNight</p> <p>(5) 参加型フォトブースの設置</p> <p>(6) 花火</p> <p>(7) 環境美化活動(ゴミ拾い) 翌日実施</p>	
事業スケジュール	<p>2月8日 みんなの津久井湖夏祭り準備委員会開催（開催の有無決定）</p> <p>3月8日 第1回実行委員会（実行委員会組織、役割分担、日程の検討）</p> <p>4月12日 第2回実行委員会（開催要綱、予算、担当別実施計画書、共催・後援依頼、ボランティア公募、SNSによる情報発信）</p> <p>5月10日 第3回実行委員会（協賛金依頼、役割担当班報告と全体討議）</p> <p>6月7日 第4回実行委員会（ポスター・チラシ、役割担当班報告と全体討議、出店者・ステージ参加者公募）</p> <p>7月12日 第5回実行委員会（役割担当班報告と全体討議）</p> <p>7月26日 出店者及びボランティアへの事前説明会</p> <p>8月7日 第6回実行委員会（事業の最終確認）</p> <p>8月11日 みんなの津久井湖夏祭り開催（15：00～20：30）</p> <p>8月12日 みんなでゴミ拾い（9：00～10：30）</p>	
次年度以降の事業計画及び事業展望	<p>①事業計画……津久井湖水の苑地の一層の魅力発信、参加者の拡大、実行委員会やボランティアへの一層の若手採用(次世代の地元の活動の担い手づくり)、新しい形で手作り感のあるイベントへの造成。</p> <p>②事業の拡大……第1回の来場者は5,000人、第2回の来場者は8,500人、第3回の今年は10,000人越えを目指す。具体的には開催時間の拡大、開催内容の充実そして一般公募による出店数やイベント参加者の拡大を図る。</p> <p>③他の地域や他団体への広がり……城山地区のイベントから緑区のイベントへ、将来的には相模原市のイベントへと造成して行く。そのためには幅広く地域住民の参加を促し、企業、行政そして近隣大学との連携を強化して行く。また、SNSを活用し広く情報発信を進めて行く。</p>	
交付金の対象事業	産業や観光の振興に関する事業（要綱第2条第1項別表第1～4該当）	
重点項目	地域における公共的な活動の担い手育成（要綱第2条第2項第2号該当）	

収入の部			支出の部		
費目	金額	説明	費目	金額	説明
市交付金	400,000	地域活性化事業交付金	報償費	165,000	出演者謝礼、ボランティア謝礼、駐車場謝礼、近隣住民粗品、トラック借用謝礼
協賛金	1,720,000		消耗品費	515,000	駐車場用、イベント用、Tシャツ、ビンゴ景品、救護用品、事務用品
雑収入	965,000	出店料、実行委員会売店売上、実行委員会縁日売上、実行委員会駐車場売上、フリーマーケット出店料	手数料	19,000	煙火消費許可申請書、振込手数料・印紙代等
			使用料	14,000	土地一時使用料（神奈中）、駐車場代他
			食料費	80,000	ボランティアスタッフ弁当・お茶代
			委託費	1,790,000	会場警備委託、花火、バスレンタル、除草費、ごみ処理
			印刷製本費	105,000	チラシ・ポスター作製費、シールステッカー
			保険料	45,000	保険料
			広告費	50,000	タウンニュース等
			備品借上料	202,000	テント借上料、ブルーライト、備品借上、発電機
			備品購入費	100,000	横断幕、のぼり旗
合計	3,085,000		合計	3,085,000	

地域活性化事業計画書

○申請者

団体名

みんなの津久井湖夏祭り実行委員会

代表者の役職及び氏名

実行委員長 宮寄 太樹

代表者の住所又は所在地

〒252-0116 相模原市緑区城山4-2-10

担当者連絡先

(氏名、電話番号、FAX番号、電子メール)

名称：みんなの津久井湖夏祭り実行委員会事務局、

住所：〒252-0153 相模原市緑区根小屋162, 電子メール：minnanotsukuiko@gmail.com

連絡先：

○事業名（事業の名称を記載してください。）

みんなの津久井湖夏祭り

○事業実施の背景や地域の現状と課題（地域で困っていることや活性化が必要なことなど、事業を実施することとなった背景事情を記述してください。）

- ①津久井湖城山公園（水の苑地）は城山地区の中で代表する風向明媚な観光スポットであるが、地区外の方の知名度が低く、津久井湖城山公園（花の苑地）に比べ観光施設が無いことや、イベントも少ないことから観光客が少ない。このことから水の苑地を活用したイベントを実施することにより、地域の魅力を発信し、知名度の向上を図り、地域の活性化につなげていく。
- ②旧津久井郡は深刻な人口減少と高齢化が進んでいることから新たな魅力を創出する必要がある。
- ③城山地区では各地域において様々なイベントが開催され、多くの地域においてスタッフの高齢化が進み、イベントの縮小や廃止がおきていることから、若手のリーダーや地域における公共的な活動の担い手の育成が必要である。

○事業の目的（事業の実施により達成しようとする目的を記述してください。）

- ①本イベントを通じて津久井湖（水の苑地）とその周辺の美しい里地里山の魅力と城山地区の伝統文化を知っていただく。
- ②このイベントは若者が中心になって、広くボランティアを募り市民参加型のイベントを目的としている。（実行委員長が20代男性、実行委員会メンバーの半分は女性）。また大学生のボランティアも昨年は60名と多かった。本イベントを通じて若手スタッフが育ち、地域における公共的な活動の担い手となって活動することを目指す。
- ③出店は一般公募とするが、地元の飲食店に声掛けし優先的に出店していただき、地域の経済活動の活性化の一助となることを目指す。
- ④本イベントを城山のイベントから緑区全体のイベントとなるよう城山地区以外の出展者、イベント参加者に広く広げて行く。また城山地区以外の団体とも本イベントに参加していただき、地域の活性化を目指す。

○事業内容（当該事業の具体的な内容を記述してください。）

- (1) 伝統芸能披露(お囃子の演奏等)
- (2) キッチンカーやテントでの軽食及びフリーマーケットによる衣類や雑貨等の販売
- (3) ステージでのパフォーマンス
- (4) ランタンキャンドル Night
- (5) 参加型フォトブースの設置
- (6) 花火
- (7) 環境美化活動（ゴミ拾い）翌日実施

○事業スケジュール(実施の時期と内容を記入してください。)

実施時期	実施内容	備考
2月8日	みんなの津久井湖夏祭り準備委員会開催(開催の有無決定)	
3月8日	第1回実行委員会(実行委員会組織、役割分担、日程の検討)	
4月12日	第2回実行委員会(開催要綱、予算、担当班別実施計画書、共催・後援依頼、ボランティア公募、SNSによる情報発信)	
5月10日	第3回実行委員会(協賛金依頼、役割担当班報告と全体討議)	
6月7日	第4回実行委員会(ポスター・チラシ、役割担当班報告と全体討議、出店者・ステージ参加者公募)	
7月12日	第5回実行委員会(役割担当班報告と全体討議)	
7月26日	出展者及びボランティアへの事前説明会	
8月7日	第6回実行委員会(事業の最終確認)	
8月11日	みんなの津久井湖夏祭り開催(15:00~20:30)	雨天決行(荒天中止)
8月12日	みんなでゴミ拾い(9:00~10:30)	

○次年度以降の事業計画及び事業展望（次年度以降の事業計画、事業の拡大、他の地域や他団体への広がりなどを記述してください。）

- ①事業計画……津久井湖水の苑地の一層の魅力発信、参加者の拡大、実行委員会やボランティアへの一層の若手採用(次世代の地元の活動の担い手づくり)、新しい形で手作り感のあるイベントへの造成。
- ②事業の拡大……第1回の来場者は5,000人、第2回の来場者は8,500人、第3回の今年は10,000人越えを目指す。具体的には開催時間の拡大、開催内容の充実そして一般公募による出店数やイベント参加者の拡大を図る。
- ③他の地域や他団体への広がり……城山地区のイベントから緑区のイベントへ、将来的には相模原市のイベントへと造成して行く。そのためには幅広く地域住民の参加を促し、企業、行政そして近隣大学との連携を強化して行く。また、SNSを活用し広く情報発信を進めて行く。

○総事業費

・予算総額：3,080,000円 ・(内交付金申請見込額)：400,000円

○事業実施の背景や地域の現状と課題をどのように捉えたか（当該事業の実施が必要な状況の発生源にチェックしてください。複数回答可能。）

- 自己認識（自分でそう感じている）
- 話合い（地域の複数人がそう感じている。）
- 調査（アンケート調査や聞き取り調査を行った。）
- 先進事例（他地域や他市町村等で取り組まれている。）
- 社会的課題（ニュースや新聞等で話題になっている。）
- その他（内容：市民参加型イベント）

検討経過や調査、研究の内容、先進事例などの具体的内容：

- ① 実行委員長、実行副委員長以下主要な役職には若手や女性を採用する。
- ② 本事業の実施内容は幅広く公募するなど市民参加型イベントとする。
- ③ 本事業を通じて若手のリーダー育成の機会とする。

○交付金の対象事業（交付金の対象となる事業のうち、どの項目に該当すると考えているかチェックしてください。）

- 地域の防災・防犯に関する事業
- 地域の保健・健康づくりの増進に関する事業
- 地域福祉の増進に関する事業
- 産業や観光の振興に関する事業
- 環境の保護・保全に関する事業
- 青少年の健全育成に関する事業
- 地域の文化・伝統の振興に関する事業
- 生涯学習に関する事業
- 地域及び地域活動の情報発信及び広報に関する事業
- 区が推進する重点事業
- その他地域のコミュニティづくりを目的とし、区長が特に認める事業

○事業の状況（新規事業か既存事業のリニューアルかチェックしてください。）

- 新規
- 既存
- 既存事業の拡大

過去の地域活性化事業交付金の交付状況：■有（交付年度令和5年）・無□

他の市の補助制度の交付状況：□有（交付年度 年）・■無

○重点項目（当該事業が要綱の優先的な対象事業に該当する場合は、その項目にチェックし、具体的な内容を記述してください。）

自治会加入促進

具体的内容：

■地域における公共的な活動の担い手育成

具体的内容：

○若手や女性を多くリーダーとして採用

実行委員長(女性 33 歳、副実行委員長(女性 35 歳、男性 45 歳、男性 27 歳)

■公共的な活動への参加者増加

具体的内容：

○昨年度は当日のボランティアが 50 名、今年度は 80 名程度を考えている

地域の公共的な活動団体間の連携強化

具体的内容：

昨年度は後援団体は 4 団体、本年度は 10 団体くらいになりそう

まちづくり会議が提示した地域課題の解決

具体的内容：

○事業実施及び結果の情報発信方法（該当する項目にチェックしてください。複数回答可能。）

■地域情報紙 団体の会報など ■団体のホームページ ■新聞等への情報提供

■その他（ 昨年は城山と津久井地区の小学校を通じてチラシを配布 ）

○その他（事業の実施体制や役割分担、事業実施上の課題などがあれば、記入してください。）

1. 役割分担

1) 役割分担は 10 の担当に分けて実施する。

① 総務班・本部 ②救護班 ③広報・放送班 ④設営班 ⑤出店班 ⑥駐車場班
⑦会場警備・ゴミ班 ⑧ステージ・イベント班 ⑨花火班 ⑩ボランティア班

2) 各班はリーダー、サブリーダー、メンバーをもって構成する。

2. 事業実施上の課題

1) 駐車場の確保と交通整理には人をかけ、安全を確保する。

2) 花火の打ち上げには、消防団の協力を得て安全の確保に努める。

3) 前回の事業開催時には備品の多くは無償借用であったが、今後事業を継続発展するためには備品の購入やリース、有償借用が必要である。

第3回 みんなの津久井湖夏祭り収支決算書

収入の部

項目	本年度予算額 (A)	前年度予算額 (B)	比較増減額 (A)-(B)	内 訳
市交付金	400,000	578,000	278,000	地域活性化交付金
補助金	0	0	0	
協賛金	1,720,000	1,500,000	220,000	協賛金
雑収入	300,000	150,000	150,000	出店料(テント出展、キッチンカー出店)
	350,000	50,000	300,000	実行委員会売店売上(ビール、梅ジュース、その他)
	100,000	0	100,000	実行委員会縁日売上(輪投げ、ピンゴ売上等)
	155,000	0	155,000	実行委員会売上(駐車代)
	60,000	60,000	0	フリーマーケット売上
繰越金	0	3000	-3,000	
合計	3,085,000	2,341,000	744,000	

支出の部

項目	本年度予算額 (A)	前年度予算額 (B)	比較増減額 (A)-(B)	内 訳
一般経費	2,985,000	2,291,000	694,000	
報償費	165,000	80,000	85,000	・出演者謝礼(お囃子、消防団) 50,000円、 ・桜美林大・法政大ボランティア謝礼(交通費) 50,000円 ・駐車場謝礼10,000円、近隣住民への粗品5,000円 ・備品搬送用トラック代(2日間) 50,000円
消耗品費	515,000	286,000	229,000	・駐車場借用10,000円 ・イベント消耗品(設営用備品費、ゴミ段ボール費他)130,000円 ・T-シャツ(実行委員用追加ユニフォーム) 60,000円 ・ピンゴ景品 35,000円、出店用ビール・梅ほか他200,000円 ・救護用品、事務用品、工具、ごみ袋、虫よけスプレー、 ・消耗品(ガムテープ、ごみ袋、除菌アルコール等) 80,000円
手数料	19,000	10,000	14,000	・煙火消費許可申請書8,000円、 ・振込手数料・印紙代等11,000円
使用料	14,000	20,000	-6,000	・土地一時使用料(神奈中) 10,000円、駐車場代他 4,000円
食料費	80,000	92,000	-12,000	・ボランティアスタッフ用弁当・お茶代 80,000円
委託費	1,790,000	1,340,000	450,000	・会場警備委託(25人) 570,000円
				・花火 800,000円、バスレンタル 250,000円
				・除草費 120,000円、ごみ処理 50,000円
印刷製本費	105,000	90,000	15,000	・チラシ・ポスター 70,000円、シールステッカー35,000円
保険料	45,000	50,000	-5,000	・保険料 45,000円
広告費	50,000	50,000	0	・タウンニュース等 0円
備品借上料	202,000	273,000	-71,000	・テント借上料 72,000円、バルンライト 60,000円
				・発電機 20,000円、備品借上50,000円
特別経費	100,000	50,000	50,000	
備品購入費	100,000	50,000	50,000	横断幕、のぼり旗 100,000円
支出合計	3,085,000	2,341,000	744,000	

団 体 概 要 調 書

○団体の名称

みんなの津久井湖夏祭り実行委員会

○団体所在地、電話（団体としての所在地が無い場合は、代表者の住所、電話を記入）

所在地：県立津久井湖城山公園 住所：相模原市緑区根小屋 162 TEL：042-780-2420

連絡先：

○代表者の役職名及び氏名

実行委員長 宮寄 太樹

○団体のHP

城山観光協会のHPを使用

○団体の目的

津久井湖（水の苑地）周辺の眺望を活かし、市民が企画し育てるイベントとして、地域の魅力を創出する「みんなの津久井湖夏祭り」を通じて地域の伝統などを紹介し地域交流型観光振興を図るとともに、地域の市民参加を推進し津久井湖周辺地域の活性化を図る。

○設立年月

（活動開始年月）

令和4年6月

○会員数

24人

○主な活動分野

① 保健・医療・福祉

② 社会教育

③ まちづくり

④ 観光

⑤ 農山漁村又は中山間地域の振興

⑥ 学術・文化・芸術・スポーツ

⑦ 環境保全

⑧ 災害救助

⑨ 地域安全

⑩ 人権・平和

⑪ 国際協力

⑫ 男女共同参画

⑬ 子どもの健全育成

⑭ 情報化社会

⑮ 科学技術

⑯ 経済活動

⑰ 職業能力開発・雇用機会

⑱ 消費者保護

⑲ 非営利活動支援

⑳ その他（ ）

○主な活動場所

津久井湖（水の苑地）

○主な活動内容

8月11日、12日開催の「みんなの津久井湖夏祭り」を企画、運営する。

※会則、規約等がある場合には、添付をお願いします。

令和6年度 地域活性化事業交付金 申請事業概要シート

資料 2 - 9

事業名	しろやま☆おせっかい		継続3年目		
申請者	城山地区まちづくり会議 高齢者ととともに築き支える地域づくり部会		部会長 林 和博		
総事業費	160,000	交付金申請額	160,000		
事業実施の背景や地域の現状と課題	城山地区では、高齢者サロンや健康体操など、地域における交流活動が活発に展開されている。しかしながら、生活様式や個人の価値観の多様化などにより、自治会、シニアクラブ、その他さまざまな交流活動の場など地域社会との直接的な関わりを持たない高齢者も増加していると感じている。そうした中、地域社会との積極的な関わりを望まない人に対しては、誰かと繋がっているという安心感が得られるようなゆるやかな見守りの仕組みが必要であると感じ、令和2年度に「みんなで気づかいあいまち・城山」そんな“おせっかい風土”を広めようと考え、異変に気付くためのポイントを示したチラシ「しろやま☆おせっかい」を民生委員児童委員協議会の協力により城山地区区内各戸に配付した。				
事業の目的	城山地区内の住民が少しだけおせっかいになり、周囲への直接的な声かけのほか、目配せや気配りによる間接的な見守りの意識を醸成し、地域全体に浸透させ、誰も取り残されない、取り残さない”しろやま☆SDGs”の街を形成するため、今回は城山地区の住民の方々と実際に地区内を回り、まちのいろいろな表情（風景）をながめながら、周囲への声かけと併せて、声かけによらない目配せ・気配りによる異変の有無の確認などを通じて“おせっかい風土”をさらに広め根づかせる。				
事業内容	令和5年度は、“おせっかい風土”をさらに広め根づかせるため、城山地区の住民（在学・在勤を含む）から参加者を募り、実際に地区内を回って、まちのいろいろな表情（風景）をながめながら、周囲への何気ない声かけと併せて、声かけによらない目配せや気配りを行う「まちかどウォッチング」を実施し、参加者への「おせっかいバッジ」の配付を通じて取組の連帯意識の向上を図った。 今年度は、「まちかどウォッチング」を引き続き実施すると共に、実際に地域で行われた“おせっかい”の事例紹介や、声かけを行う際の方法などを地域の方に見ていただく場を設け、さらなる風土の醸成を図りたい。また、「しろやま☆おせっかい」を根づかせるため、活動内容のパネル展示などの普及・啓発活動を行う。				
事業スケジュール	4～6月 まちかどウォッチング実施方法、参加者募集チラシ配付方法の検討 参加者募集チラシ（案）検討・作成 7月 参加者募集チラシの配布、まちかどウォッチング第1回 9月 参加者募集チラシの配布、まちかどウォッチング第2回 11月 参加者募集チラシの配布、まちかどウォッチング第3回 12～1月 活動報告、普及・啓発実施方法の検討（パネル展示など） 1月 参加者募集チラシの配布、まちかどウォッチング第4回 2月 パネル展示等、普及・啓発活動 その都度地域情報紙などで広報を行う				
次年度以降の事業計画及び事業展望	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度以降も引き続き城山地区の住民が少しだけおせっかいになるように、関係団体へ働きかけを行い、地区内への意識の浸透を図る。 ・取組の継続を担保すべく、将来の取組体制について検討を行う。 ・今年度の取組を踏まえ、PDCAサイクルに基づき検証を行い、新たな取組の必要性について検討を行う。 <p>※PDCA：Plan（計画）→Do（実行）→Check（評価）→Action（改善）のサイクル</p>				
交付金の対象事業	地域福祉の増進に関する事業（要綱第2条第1項別表第1－3該当）				
重点項目	まちづくり会議が提示した地域課題の解決（要綱第2条第2項第5号該当）				
収入の部			支出の部		
費目	金額	説明	費目	金額	説明
市交付金	160,000		消耗品費	60,000	事務用品等 10,000円 缶バッジ材料 3,000円 Tシャツ 47,000円
			印刷製本費	42,000	チラシ作成 26,000円 展示パネル作成16,000円
			食糧費	15,000	参加者飲料
			手数料	2,500	代引き手数料等
			使用料	500	エアコン使用料
			委託料	40,000	PR動画作成委託
合計	160,000		合計	160,000	

地域活性化事業計画書

○申請者

団体名

城山地区まちづくり会議 高齢者とともに築き支える地域づくり部会

代表者の役職及び氏名

部会長 林 和 博

代表者の住所又は所在地

相模原市緑区久保沢1-3-1

担当者連絡先 事務局：城山まちづくりセンター Tel：042-783-8117

(氏名、電話番号、FAX番号、電子メール)

○事業名（事業の名称を記載してください。）

しろやま☆おせっかい

○事業実施の背景や地域の現状と課題（地域で困っていることや活性化が必要なことなど、事業を実施することとなった背景事情を記述してください。）

城山地区では、高齢者サロンや健康体操など、地域における交流活動が活発に展開されている。しかしながら、生活様式や個人の価値観の多様化などにより、自治会、シニアクラブ、その他さまざまな交流活動の場など地域社会との直接的な関わりを持たない高齢者も増加していると感じている。そうした中、地域社会との積極的な関わりを望まない人に対しては、誰かと繋がっているという安心感が得られるようなゆるやかな見守りの仕組みが必要であると感じ、令和2年度に「みんなで気づかいあうまち・城山」そんな“おせっかい風土”を広めようと考え、異変に気付くためのポイントを示したチラシ「しろやま☆おせっかい」を民生委員児童委員協議会の協力により城山地区内各戸に配付した。

○事業の目的（事業の実施により達成しようとする目的を記述してください。）

城山地区内の住民が少しだけおせっかいになり、周囲への直接的な声かけのほか、目配せや気配りによる間接的な見守りの意識を醸成し、地域全体に浸透させ、誰も取り残されない、取り残さない”しろやま☆SDGs”の街を形成するため、今回は城山地区の住民の方々と実際に地区内を回り、まちのいろいろな表情（風景）をながめながら、周囲への声かけと併せて、声かけによらない目配せ・気配りによる異変の有無の確認などを通じて“おせっかい風土”をさらに広め根づかせる。

○事業内容（当該事業の具体的な内容を記述してください。）

令和5年度は、“おせっかい風土”をさらに広め根づかせるため、城山地区の住民（在学・在勤を含む）から参加者を募り、実際に地区内を回って、まちのいろいろな表情（風景）をながめながら、周囲への何気ない声かけと併せて、声かけによらない目配せや気配りを行う「まちかどウォッチング」を実施し、参加者への「おせっかいバッジ」の配付を通じて取組の連帯意識の向上を図った。

今年度は、「まちかどウォッチング」を引き続き実施すると共に、実際に地域で行われた“おせっかい”の事例紹介や、声かけを行う際の方法などを地域の方に見ていただく場を設け、さらなる風土の醸成を図りたい。また、「しろやま☆おせっかい」を根づかせるため、活動内容のパネル展示などの普及・啓発活動を行う。

○事業スケジュール（実施の時期と内容を記入してください。）

実施時期	実施内容	備考
4～6月	まちかどウォッチング実施方法の検討 参加者募集チラシ配付方法の検討 参加者募集チラシ（案）検討・作成	
7月	参加者募集のチラシ配付 まちかどウォッチング（第1回）	
9月	参加者募集のチラシ配付 まちかどウォッチング（第2回）	
11月	参加者募集のチラシ配付 まちかどウォッチング（第3回）	
12～1月	活動報告、普及・啓発実施方法の検討（パネル展示など）	
1月	参加者募集のチラシ配付 まちかどウォッチング（第4回）	
2月	パネル展示等、普及・啓発活動	
	その都度地域情報紙などで広報を行う	

○次年度以降の事業計画及び事業展望（次年度以降の事業計画、事業の拡大、他の地域や他団体への広がりなどを記述してください。）

- ・次年度以降も引き続き城山地区の住民が少しだけおせっかいになるように、関係団体へ働きかけを行い、地区内への意識の浸透を図る。
- ・取組の継続を担保すべく、将来の取組体制について検討を行う。
- ・今年度の取組を踏まえ、PDCA サイクルに基づき検証を行い、新たな取組の必要性について検討を行う。

※PDCA：Plan（計画）→Do（実行）→Check（評価）→Action（改善）のサイクル

○総事業費

・予算総額： 160,000円 ・(内交付金申請見込額)： 160,000円

○事業実施の背景や地域の現状と課題をどのように捉えたか（当該事業の実施が必要な状況の発生源にチェックしてください。複数回答可能。）

- 自己認識（自分でそう感じている）
- 話合い（地域の複数人がそう感じている。）
- 調査（アンケート調査や聞き取り調査を行った。）
- 先進事例（他地域や他市町村等で取り組まれている。）
- 社会的課題（ニュースや新聞等で話題になっている。）
- その他（内容： ）

検討経過や調査、研究の内容、先進事例などの具体的内容：

○交付金の対象事業（交付金の対象となる事業のうち、どの項目に該当すると考えているかチェックしてください。）

■地域の防災・防犯に関する事業

□地域の保健・健康づくりの増進に関する事業

■地域福祉の増進に関する事業

□産業や観光の振興に関する事業

□環境の保護・保全に関する事業

□青少年の健全育成に関する事業

□地域の文化・伝統の振興に関する事業

□生涯学習に関する事業

□地域及び地域活動の情報発信及び広報に関する事業

□区が推進する重点事業

□その他地域のコミュニティづくりを目的とし、区長が特に認める事業

○事業の状況（新規事業か既存事業のリニューアルかチェックしてください。）

□新規

■既存

□既存事業の拡大

過去の地域活性化事業交付金の交付状況：■有（交付年度 令和2，5年度）・□無

他の市の補助制度の交付状況：□有（交付年度 年）・■無

○重点項目（当該事業が要綱の優先的な対象事業に該当する場合は、その項目にチェックし、具体的な内容を記述してください。）

□自治会加入促進

具体的内容：

□地域における公共的な活動の担い手育成

具体的内容：

□公共的な活動への参加者増加

具体的内容：

□地域の公共的な活動団体間の連携強化

具体的内容：

■まちづくり会議が提示した地域課題の解決

具体的内容：

平成30年度から城山地区まちづくり会議において、地域と繋がりのない高齢者が孤立しない仕組みについて検討が行われ、令和2年度には、「みんなで気づかいあうまち・城山」そんな“おせっかい風土”を広めようと考え、異変に気付くためのポイントを示したチラシ「しろやま☆おせっかい」を民生委員児童委員協議会の協力により城山地区内各戸に配付した。令和5年度は“おせっかい風土”をさらに広め根づかせるため、城山地区の住民と一緒に実際に地区内を回って、まちのいろいろな表情（風景）をながめながら、周囲への何気ない声かけと併せて、声かけによらない目配せや気配りを行う「まちかどウォッチング」を実施し、取組の意識向上を図った。

○事業実施及び結果の情報発信方法（該当する項目にチェックしてください。複数回答可能。）

■地域情報紙 □団体の会報など □団体のホームページ □新聞等への情報提供

■その他（自治会回覧等）

○その他（事業の実施体制や役割分担、事業実施上の課題などがあれば、記入してください。）

令和6年度 収支予算書

1 収入の部

科 目	本年度予算額 (A)	前年度予算額 (B)	増 減 (A) - (B)	説 明
市交付金	160,000円	120,000円	40,000円	
収入合計	160,000円	120,000円	40,000円	

2 支出の部

科 目	本年度予算額 (A)	前年度予算額 (B)	増 減 (A) - (B)	説 明
一般経費	160,000円	120,000円	40,000円	
消耗品費	60,000円	65,000円	△5,000円	事務用品等 10,000円 缶バッジ材料 3,000円 Tシャツ 47,000円
印刷製本費	42,000円	35,000円	7,000円	チラシ作成 26,000円 展示パネル作成16,000円
食糧費	15,000円	20,000円	△5,000円	参加者飲み物
手数料	2,500円	0円	2,500円	代引き手数料等
使用料	500円	0円	500円	エアコン使用料
委託料	40,000円	0円	40,000円	PR動画作成委託
特別経費	0円	0円	0円	
支出合計	160,000円	120,000円	40,000円	

※特別経費：交付対象経費のうち1万円を超える財産を購入する場合は、この欄に記入

団 体 概 要 調 書

○団体の名称

城山地区まちづくり会議高齢者とともに築き支える地域づくり部会

○団体所在地、電話（団体としての所在地が無い場合は、代表者の住所、電話を記入）

所在地 相模原市緑区久保沢 1-3-1

電 話 事務局：城山まちづくりセンター 船橋 Tel：042-783-8117

○代表者の役職名及び氏名

部会長 林 和博

○団体のHP

なし

○団体の目的

城山地区まちづくり会議で提示されている課題解決

○設立年月

（活動開始年月）

令和元年5月28日

○会員数

11人（令和6年4月1日現在）

○主な活動分野

① 保健・医療・福祉

② 社会教育

③ まちづくり

④ 観光

⑤ 農山漁村又は中山間地域の振興

⑥ 学術・文化・芸術・スポーツ

⑦ 環境保全

⑧ 災害救助

⑨ 地域安全

⑩ 人権・平和

⑪ 国際協力

⑫ 男女共同参画

⑬ 子どもの健全育成

⑭ 情報化社会

⑮ 科学技術

⑯ 経済活動

⑰ 職業能力開発・雇用機会

⑱ 消費者保護

⑲ 非営利活動支援

⑳ その他（ ）

○主な活動場所

相模原市緑区城山地区

○主な活動内容

城山地区まちづくり会議で提示されている課題解決に向けた検討・取組を行う。

※会則、規約等がある場合には、添付をお願いします。

令和6年度 地域活性化事業交付金 申請事業概要シート

事業名	あつまれ～ しろやまっこ！		新規		
申請者	城山地区まちづくり会議 子どもたちの主体性を育む地域づくり部会		部会長 金子 直美		
総事業費	108,000	交付金申請額	108,000		
事業実施の背景や地域の現状と課題	<p>かつて、子どもたちの社会性の基礎となる「人との関わり」は、近隣の子ども同士の交流や、家庭の中でのきょうだい同士の交流の中で、遊びを通して自然に身に付いてきた。大きい子どもは小さな子どもをいたわり、守る。小さな子どもは大きな子どもに感謝し、憧れる。そんな関わりの中で、ゆっくりと育まれてきた。</p> <p>しかしながら、地域の間人関係の希薄化が進み、近所づきあいや親戚づきあひも減少し、少子化によってきょうだい数や地域の子どもの数が減ってくる中で、子どもたちが「人と関わる」ことに自然に慣れ、「人と関わりたい」という思いを自然に感じとっていく、そんな場も機会も失われてきているように感じられる。</p> <p>こうした状況の中、城山地区まちづくり会議では、部会を設置し、「既存の伝統行事や観光資源などを生かし世代間・地域間交流を進めるとともに、子どもたちが主体性をもって地域に関われる仕組みづくり」をテーマに検討を進めてきた。</p>				
事業の目的	<p>近年、少子化の進行による子どもの減少に伴い、地域での同年齢・異年齢のさまざまな子ども同士のふれあいが少なくなり、地域における多様な子ども集団の形成が難しく、城山地区のほとんどの地域は育成会の活動が縮小している、子どもの社会性などの育成面で困難な状況が生じている。</p> <p>このような状況下において、城山地区の観光資源などを活用し、子どもたちの主体的・自主的な取組を通して、子どもたちの異年齢・世代間の交流を図り、その活動を通して、子どもたちの社会性や主体性を育むとともに地域への理解を促し愛着心を育てることを目的とする。</p>				
事業内容	城山地区の小学生を対象に、城山地区子ども会育成連絡協議会と協力・連携をして、モルック等の遊びやスポーツを通じて子どもたちが集まり交流できる場を設け、子どもたちから出される意見を聞きながら、子どもたちの主体性や社会性、地域への愛着心を育むことができる事業を実施する。				
事業スケジュール	<p>4～10月 あつまれ～ しろやまっこ！の実施方法の検討 参加者募集チラシ配布方法の検討 参加者募集チラシ（案）検討・作成</p> <p>11月 地域情報紙で広報、参加者募集のチラシ配付</p> <p>12月 あつまれ～ しろやまっこ！（第1回） 川尻小学校グラウンド（予定）</p> <p>1月 事業の振り返り、検討</p>				
次年度以降の事業計画及び事業展望	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度以降、子どもたちの主体性が発揮される事業を検討し、実施する。 ・将来的に、城山地区全体で「育成会」や「子ども会」が復活、活性化され、今回共催する「城山地区子ども会育成連絡協議会」が城山地区全体の子どもたちが多数参加する組織となるよう助力する。 				
交付金の対象事業	青少年の健全育成に関する事業（要綱第2条第1項別表第1～6該当）				
重点項目	まちづくり会議が提示した地域課題の解決（要綱第2条第2項第5号該当）				
収入の部			支出の部		
費目	金額	説明	費目	金額	説明
市交付金	108,000		報償費	40,000	コーディネーター謝礼
			消耗品費	23,000	事務用品等 15,000円 ベスト 8,000円
			印刷製本費	11,000	チラシ印刷 5,000円 ポスター印刷6,000円
			食糧費	9,000	参加者飲食費
			委託料	20,000	汁物提供委託
			備品借上料	5,000	ガスコンロ
合計	108,000		合計	108,000	

地域活性化事業計画書

○申請者

団体名

城山地区まちづくり会議 子どもたちの主体性を育む地域づくり部会

代表者の役職及び氏名

部会長 金子 直美

代表者の住所又は所在地

相模原市緑区久保沢 1-3-1

担当者連絡先 事務局：城山まちづくりセンター Tel：042-783-8117

(氏名、電話番号、FAX番号、電子メール)

○事業名 (事業の名称を記載してください。)

あつまれ～しろやまっこ！

○事業実施の背景や地域の現状と課題 (地域で困っていることや活性化が必要なことなど、事業を実施することとなった背景事情を記述してください。)

かつて、子どもたちの社会性の基礎となる「人との関わり」は、近隣の子ども同士の交流や、家庭の中でのきょうだい同士の交流の中で、遊びを通して自然に身に付いてきた。大きい子どもは小さな子どもをいたわり、守る。小さな子どもは大きな子どもに感謝し、憧れる。そんな関わりの中で、ゆっくりと育まれてきた。

しかしながら、地域の間関係の希薄化が進み、近所づきあいや親戚づきあひも減少し、少子化によってきょうだい数や地域の子どもの数が減ってくる中で、子どもたちが「人と関わる」ことに自然に慣れ、「人と関わりたい」という思いを自然に感じとっていく、そんな場も機会も失われてきているように感じられる。

こうした状況の中、城山地区まちづくり会議では、部会を設置し、「既存の伝統行事や観光資源などを生かし世代間・地域間交流を進めるとともに、子どもたちが主体性をもって地域に関われる仕組みづくり」をテーマに検討を進めてきた。

○事業の目的 (事業の実施により達成しようとする目的を記述してください。)

近年、少子化の進行による子どもの減少に伴い、地域での同年齢・異年齢のさまざまな子ども同士のふれあひが少なくなり、地域における多様な子ども集団の形成が難しく、城山地区のほとんどの地域は育成会の活動が縮小している、子どもの社会性などの育成面で困難な状況が生じている。

このような状況下において、城山地区の観光資源などを活用し、子どもたちの主体的・自主的な取組を通して、子どもたちの異年齢・世代間の交流を図り、その活動を通して、子どもたちの社会性や主体性を育むとともに地域への理解を促し愛着心を育てることを目的とする。

○事業内容 (当該事業の具体的な内容を記述してください。)

城山地区の小学生を対象に、城山地区子ども会育成連絡協議会と協力・連携をして、モルック等の遊びやスポーツを通じて子どもたちが集まり交流できる場を設け、子どもたちから出される意見を聞きながら、子どもたちの主体性や社会性、地域への愛着心を育むことができる事業を実施する。

○事業スケジュール（実施の時期と内容を記入してください。）

実施時期	実施内容	備考
4～10月	あつまれ しろやまっこの実施方法の検討 参加者募集チラシ配付方法の検討 参加者募集チラシ（案）検討・作成	
11月	地域情報紙で広報、参加者募集のチラシ配付	
12月	あつまれ しろやまっこ（第1回） 川尻小学校グラウンド（予定）	
1月	事業の振り返り、検討	

○次年度以降の事業計画及び事業展望（次年度以降の事業計画、事業の拡大、他の地域や他団体への広がりなどを記述してください。）

- ・次年度以降、子どもたちの主体性が発揮される事業を検討し、実施する。
- ・将来的に、城山地区全体で「育成会」や「子ども会」が復活、活性化され、今回共催する「城山地区子ども会育成連絡協議会」が城山地区全体の子どもたちが多数参加する組織となるよう助力する。

○総事業費

・予算総額：108,000円 ・（内交付金申請見込額）：108,000円

○事業実施の背景や地域の現状と課題をどのように捉えたか（当該事業の実施が必要な状況の発生源にチェックしてください。複数回答可能。）

- 自己認識（自分でそう感じている）
- 話合い（地域の複数人がそう感じている。）
- 調査（アンケート調査や聞き取り調査を行った。）
- 先進事例（他地域や他市町村等で取り組まれている。）
- 社会的課題（ニュースや新聞等で話題になっている。）
- その他（内容： ）

検討経過や調査、研究の内容、先進事例などの具体的内容：

○交付金の対象事業（交付金の対象となる事業のうち、どの項目に該当すると考えているかチェックしてください。）

- 地域の防災・防犯に関する事業
- 地域の保健・健康づくりの増進に関する事業
- 地域福祉の増進に関する事業
- 産業や観光の振興に関する事業
- 環境の保護・保全に関する事業
- 青少年の健全育成に関する事業
- 地域の文化・伝統の振興に関する事業
- 生涯学習に関する事業
- 地域及び地域活動の情報発信及び広報に関する事業
- 区が推進する重点事業
- その他地域のコミュニティづくりを目的とし、区長が特に認める事業

○事業の状況（新規事業か既存事業のリニューアルかチェックしてください。）

■新規 □既存 □既存事業の拡大

過去の地域活性化事業交付金の交付状況：□有（交付年度 年度）・■無

他の市の補助制度の交付状況：□有（交付年度 年）・■無

○重点項目（当該事業が要綱の優先的な対象事業に該当する場合は、その項目にチェックし、具体的な内容を記述してください。）

□自治会加入促進

具体的内容：

□地域における公共的な活動の担い手育成

具体的内容：

□公共的な活動への参加者増加

具体的内容：

□地域の公共的な活動団体間の連携強化

具体的内容：

■まちづくり会議が提示した地域課題の解決

具体的内容：

平成30年度から城山地区まちづくり会議において、子どもたちが主体性を持って地域に関わる仕組みづくりについて検討が行われ、子どもたちを集めて行う事業を計画し、実施することとなった。

○事業実施及び結果の情報発信方法（該当する項目にチェックしてください。複数回答可能。）

■地域情報紙 □団体の会報など □団体のホームページ □新聞等への情報提供

■その他（自治会回覧等）

○その他（事業の実施体制や役割分担、事業実施上の課題などがあれば、記入してください。）

令和6年度 収支予算書

1 収入の部

科 目	本年度予算額 (A)	前年度予算額 (B)	増 減 (A) - (B)	説 明
市交付金	108,000円	0円	円	地域活性化事業交付金
収入合計	円	0円	円	

2 支出の部

科 目	本年度予算額 (A)	前年度予算額 (B)	増 減 (A) - (B)	説 明
一般経費	円	0円	円	
報償費	40,000円	0円	円	コーディネーター謝礼 40,000円
消耗品費	23,000円	0円	円	事務用品等 15,000円 ベスト 8,000円
印刷製本費	11,000円	0円	円	チラシ印刷 (800部) 5,000円 ポスター印刷 (50部) 6,000円
食糧費	9,000円	0円	円	参加者飲食費 9,000円
委託料	20,000円	0円	円	汁物提供委託 20,000円
備品借上料	5,000円	0円	円	ガスコンロ 5,000円
特別経費	0円	0円	0円	
支出合計	円	0円	円	

※特別経費：交付対象経費のうち1万円を超える財産を購入する場合は、この欄に記入

団 体 概 要 調 書

○団体の名称

城山地区まちづくり会議 子どもたちの主体性を育む地域づくり部会

○団体所在地、電話（団体としての所在地が無い場合は、代表者の住所、電話を記入）

所在地 相模原市緑区久保沢1-3-1

電 話 事務局：城山まちづくりセンター 船橋 Tel：042-783-8117

○代表者の役職名及び氏名

部会長 金子 直美

○団体のHP

なし

○団体の目的

城山地区まちづくり会議で提示されている課題解決

○設立年月

（活動開始年月）

令和元年5月28日

○会員数

11人（令和6年4月1日現在）

○主な活動分野

① 保健・医療・福祉

② 社会教育

③ まちづくり

④ 観光

⑤ 農山漁村又は中山間地域の振興

⑥ 学術・文化・芸術・スポーツ

⑦ 環境保全

⑧ 災害救助

⑨ 地域安全

⑩ 人権・平和

⑪ 国際協力

⑫ 男女共同参画

⑬ 子どもの健全育成

⑭ 情報化社会

⑮ 科学技術

⑯ 経済活動

⑰ 職業能力開発・雇用機会

⑱ 消費者保護

⑲ 非営利活動支援

⑳ その他（ ）

○主な活動場所

相模原市緑区城山地区

○主な活動内容

城山地区まちづくり会議で提示されている課題解決に向けた検討・取組を行う。

※会則、規約等がある場合には、添付をお願いします。